

カリキュラム・マップ

経済学部教育目的

幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出す。

学修成果

- 「学士(経済学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。
- ① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。
 - ② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。
 - ③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。
 - ④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。
 - ⑤ 自らのキャリアを設計することができる。

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経済学1	必修科目	1	マルクス経済学の基礎概念と理論及び歴史的背景についてバランスよく習得し、現代の経済問題に関する議論に参加しうる経済学的視点を養う。	◎	◎	◎	△	
経済学2	必修科目	1	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を中心に、経済学の基本的な考え方を学ぶ。それを通じて様々な経済問題に対して、自分なりの意見を持てるようになる。	◎	◎	◎	△	
社会経済学1	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	資本主義的生産の基本的関係をなす市場経済とはどのような生産関係かを理解する。さらに、資本主義的生産の基本的関係である資本・賃労働関係を学んだ上で、我々の社会の構造と運動法則を理解することができる。	○	◎	◎		
社会経済学2	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	資本主義経済における企業や労働者・消費者の行動を決定する社会的枠組みを探求する。その過程で価格や資本の本質をつかまえ、資本の運動法則とそれから生ずる経済現象を理解することができる。	○	◎	◎		
初級ミクロ経済学1	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	標準的なミクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	
初級ミクロ経済学2	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	入門的なミクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初~中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
初級マクロ経済学1	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	標準的なマクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	
初級マクロ経済学2	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	入門的なマクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初~中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
基礎ゼミナール1	共通選択科目1	1	大学における学習に円滑に適応できるように、アカデミック・スキルの基本と方法を身につけることができる。			◎	◎	○
基礎ゼミナール2	共通選択科目1	1	アカデミック・スキルの基本を踏まえてレポートを作成し、2年次以降の専門ゼミナールでの学習に向けた準備をすることができる。			◎	◎	○
情報処理入門1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	パソコンを活用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶ。		○	◎	◎	

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
情報処理入門2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済データ、財務データ、会計データを使った応用分析ができる能力を身につける。		○	◎	◎			
経済数学入門	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	入門~初中級レベルの経済学において、どのように数学が利用されるかについて理解することができる。		○	◎	◎			
経済史1	共通選択科目1	1~4 (1推奨)	経済に関する歴史的・世界的な知識や理解を得ることで、現在の社会・経済をよりよく把握し分析する力を磨くことができる。	◎	◎	○				
経済史2	共通選択科目1	1~4 (1推奨)	経済学の各分野を学ぶ前提として、経済についての歴史的な基礎知識を身につけ、かつ経済を歴史的に捉える多様なアプローチを学び、柔軟な知性を磨く。	◎	◎	○				
統計学1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済データ、調査データに馴染むとともに、平均、分散、標準偏差、比率、相関といった記述統計学の基本的手法を取り扱うことが出来るようになる。		◎	◎	◎			
統計学2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済データに馴染むとともに、確率と確率変数、母集団と標本といった記述統計学の基本的手法を取り扱うことが出来るようになる。		◎	◎	◎			
外書講読・英A	共通選択科目1	2~4 (2,3年次推奨)	英語文献の講読を通じて、自分で英語経済学文献にチャレンジできるための基礎的訓練を行う。	◎	◎					
外書講読・英B	共通選択科目1	2~4 (2,3年次推奨)	英語文献の講読を通じて、自分で英語経済学文献にチャレンジできるための基礎的訓練を行うことができる。	◎	◎					
経営学1	共通選択科目1	1~4	社会と企業の間を軸に、企業の経営について理解し、実践するための知識の習得を目指す。	○	◎	◎				
経営学2	共通選択科目1	1~4	企業と個人の間を軸に理論を学習するとともに、経営にまつわる身近で、現実の問題について一緒に考えることができる。	○	◎	◎				
簿記1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎			
簿記2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎			
応用社会経済学1	共通選択科目2	3~4	現代経済の仕組みを根本から、すなわち労働という、システムの発生点から把握する。	○	◎					
応用社会経済学2	共通選択科目2	3~4	現代経済の仕組みを、所有という、システムを正当化する制度的形態の観点から、把握する。	○	◎					
中級ミクロ経済学	共通選択科目2	3~4	ミクロ経済学の中の不完全競争市場の性質について理解することを目指す。	○	◎	◎				

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
中級マクロ経済学	共通選択科目2	3~4	現代の標準的なマクロ経済学の骨格を理解し、ケインズ経済学と対比しつつ、その特徴を理解することができるようになる。	○	◎	◎				
経済学史1	共通選択科目2	1~4 (1,2年次推奨)	重商主義期から、古典派経済学を経て、近代経済学へと連なる価値と分配の理論の発展の歴史を理解することができる。	◎	◎					
経済学史2	共通選択科目2	1~4 (1,2年次推奨)	イギリス通商政策についてのエコノミストたちの議論の歴史を通じて、経済学がいかに発展してきたのかを理解することができる。	◎	◎	○				
経済統計学1	共通選択科目2	2~4	国民経済の全体(マクロ)に関する経済統計である国民経済計算を理解することによって、さまざまな経済統計に対する理解を深めることができる。		◎	◎	◎			
経済統計学2	共通選択科目2	2~4	産業連関表(I-O表)を読み取り、基本的な産業連関モデルを理解し、実際にExcelを使用して経済波及効果を推計できるようになる。		◎	◎	◎			
計量経済学1	共通選択科目2	2~4	重回帰分析を中心とする計量経済分析法の基礎的考え方を習得するとともに、経済データを用いて実際に計量分析が行えるようにする。		◎	◎	◎			
計量経済学2	共通選択科目2	2~4	相関・回帰分法、時系列分析を中心とする計量経済分析法を学習し、基本的な計量分析を自立的に行えるようにする。		◎	◎	◎			
日本経済論1	共通選択科目2	1~4 (1,2年次推奨)	日本経済の主な特徴を理解することにより経済への関心を養うことができる。	◎	◎	○	△			
日本経済論2	共通選択科目2	1~4 (1,2年次推奨)	第二次大戦後の日本経済の発展と現在の問題点を考え、一国経済の全体を理解する基礎的な力を養うことができる。	◎	◎	◎	△			
国際経済論	共通選択科目2	1~4	各国・各地域の経済を結びつける国際フロー(財・サービス・資本・人)を理解するための多様な考え方、およびそれを支えるWTO等の国際的な制度の役割に関する基礎知識を学び、今日の国際分業の特徴を理解することができる。	◎	◎	◎	△			
世界経済論	共通選択科目2	1~4	経済活動のグローバル化と不均質性を伴った世界経済の現状の全体像を理解した上で、産業分野・政策分野ごとのグローバル化の特徴を学び、さらに各国・各地域の経済が、世界経済において、どのような位置にあるかを理解することができる。	◎	◎					
財政学1	共通選択科目2	2~4	財政の基本的な制度とその機能について理解を深め、現実日本が直面する財政問題について考える力を身につける。	○	◎	○				
財政学2	共通選択科目2	2~4	財政の基本的な制度とその機能について理解を深め、現実日本が直面する財政問題について考える力を身につける。	○	◎	◎				
金融論1	共通選択科目2	1~4	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解する。特に基礎的な制度や理論の理解を目標にする。	○	◎	◎				
金融論2	共通選択科目2	1~4	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解することができる。	○	◎	◎				

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
日本経済史1	共通選択科目2	2～4	大間検地から明治初期に至るまでの日本経済の歩みを概観し、経済現象を歴史的に観察する能力を身につける。	◎	◎	○				
日本経済史2	共通選択科目2	2～4	産業革命期から戦後復興期までの日本経済の歩みを概観し、経済現象を歴史的に観察する能力を身につける。	◎	◎	○				
経済情報処理A	共通選択科目2	2～4 (2年次推奨)	表計算ソフトExcel2010を用いて実際に統計データを分析できる力を身につける。データと対話しながらデータに含まれる有用な情報を読み取るセンスと技法を学ぶ。			○	◎			
経済情報処理B	共通選択科目2	2～4 (2年次推奨)	個別データ(マイクロデータ)の取り扱い方、統計解析法を学ぶ。データと対話しながら各自で分析作業を行い、データ分析力を身につける。			◎	◎			
経済英語1	共通選択科目2	2～4	世界経済が抱える諸課題について、経済学的に理解する力をつける。同時に経済問題を論じた映像を見て聴いてテキストを読んで理解する力をつける。	◎						
経済英語2	共通選択科目2	2～4	世界経済が抱える諸課題について、①経済学で理解する、②テキストの英文を理解する、③映像を見て言葉を聴き取る、の3つの目標達成を目指す。	◎						
経済英語3	共通選択科目2	2～4	英語を使って会社員としての基本業務をひととおりこなせるようになるための、初歩的訓練を行う。会話や文書作成の基本を身につける。	◎						
経済英語4	共通選択科目2	2～4	聴く、読む、書く、話すという英語力のうち、とくに話す力と書く力を向上させる。TOEIC等外部試験での点数向上も副次的目標として考慮する。	◎						
経済英語5	共通選択科目2	2～4	政治経済、経営の知的枠組みを理解し、コンテンポラリーな話題について英語で理論的に議論できる力を養う。	◎						
経済英語6	共通選択科目2	2～4	政治経済、経営の知的枠組みを理解し、コンテンポラリーな話題について英語で理論的に議論できる力を養う。	◎						
経済英語7	共通選択科目2	2～4	英語を利用したディベートやグループワークを通じ、日本や世界経済が抱える課題について理解する力を身につけることができる。	◎						
経済英語8	共通選択科目2	2～4	英語を利用したディベートやグループワークを通じ、日本や世界経済が抱える課題について理解する力を身につけることができる。	◎						
Short-term Study Abroad Program in Economics(USA)	共通選択科目2	2～4	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○		
Short-term Study Abroad Program in Economics(UK)	共通選択科目2	2～4	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○		
Short-term Study Abroad Program in Economics(CAN)	共通選択科目2	2～4	海外の経済と文化を理解するとともに、国際的な場で活躍するために必要なスキルを身につける。	◎	◎			○		

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
Short-term Study Abroad Program in Economics(AUS)	共通選択科目2	1～3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○		
Short-term Study Abroad Program in Economics(PHL)	共通選択科目2	1～3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○		
数理経済学	学科選択科目	2～4	経済学の思考方法と数学的論理の血縁関係を前提に、経済学の論理の核心部分を理解し、説明することができる。 <今年度開講せず>		◎					
景気変動論1	学科選択科目	3～4	動学的経済分析に必要な、静学モデルについての基礎知識および初歩的数学知識を再確認する。	○	◎	◎				
景気変動論2	学科選択科目	3～4	マクロ経済動学の初歩に触れることにより、広くダイナミクス全般を理解することができる。		◎	◎				
社会思想史	学科選択科目	2～4	古典の文言を通して思想を理解し、その基礎にある人間観に触れる。ドリルを繰り返すことで読み取る力を身につけることができる。	◎	◎					
現代社会思想	学科選択科目	2～4	合理主義と理性がもたらした「現代」の諸問題はどうか解釈され、どんな解決方法を生んだのか。現代人の常識としてその基本を理解し、説明することができる。	◎	◎					
近代経済学説史	学科選択科目	2～4	現代経済学の様々な考え方を、その成立の経緯にまで遡って理解することができる。	○	◎	○				
欧州経済史	学科選択科目	2～4	市場経済の本質を探るため、それが史上初めて一般化した西欧の経済史を太古にまで遡って理解し、説明することができる。	◎	◎					
現代ヨーロッパ経済史	学科選択科目	2～4	分裂から統合へと向かう20世紀欧州経済の歴史を通貨問題を切り口に理解し、説明することができる。	◎	◎					
経営史1	学科選択科目	2～4	近代工業の成立から近年に至るまでの世界の企業経営の推移について検討することで、企業経営の歴史的変化について理解し、説明することができる。	◎	◎					
経営史2	学科選択科目	2～4	企業経営の歴史的変化について、日本の事例について理解し、説明することができる。	◎	◎					
公共経済学1	学科選択科目	2～4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを理解することができる。	○	◎	◎				

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
公共経済学2	学科選択科目	2～4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを理解することができる。	○	◎	◎				
産業経済論1	学科選択科目	2～4	これまで日本の産業システムはなぜ競争力を発揮してきたのか。その理由や日本企業・産業のあり方を理解することができる。	○	◎	○				
産業経済論2	学科選択科目	2～4	これまで日本の産業システムはなぜ競争力を発揮してきたのか。その理由や日本企業・産業のあり方を理解することができる。	○	◎	○				
労働経済論1	学科選択科目	2～4	労働経済に関する学問的な基礎知識を習得し、日本の雇用システムを理論的かつ構造的に把握する能力を養う。	○	◎	◎				
労働経済論2	学科選択科目	2～4	日本の労働経済の現状を認識し、学問的な方法に基づいて多面的に分析する能力を身につける。	○	◎	◎				
社会政策論1	学科選択科目	2～4	社会政策(社会保障)の諸制度・理論を習得する。	○	◎					
社会政策論2	学科選択科目	2～4	現物給付中心の社会保障制度である健康保険と介護保険について理解し、説明することができる。	○	◎					
農業経済論	学科選択科目	2～4	農業をめぐる諸問題について基礎的知識を身につけるとともに、食料、資源、環境のアプローチからその経済学的理解を深める。	○	◎	○				
農業政策論	学科選択科目	2～4	食料、資源、環境の分野にまたがり、経済政策と社会政策の両面的性格をあわせもつ農業政策について国際的視野から理解する。	○	◎	○				
都市政策論1	学科選択科目	2～4	都市経済学の観点から現代の経済社会において都市が担う役割について学ぶとともに、各種の事例を通じて公共政策分析の基礎を身につける。	○	◎	◎				
都市政策論2	学科選択科目	2～4	住宅及び土地の市場を中心に、現代の都市を分析する視覚を身につける。また、中心市街地活性化や廃棄物問題などの現代の都市問題を分析することが出来るようになる。	○	◎	◎				
環境経済学1	学科選択科目	2～4	環境経済学の理論と現実を理解し、説明することができる。	○	◎	◎				
環境経済学2	学科選択科目	2～4	環境経済学の理論と現実を理解し、説明することができる。	○	◎	◎				
開発経済学	学科選択科目	2～4	開発経済学の基本的な知識を身につけるとともに、貧困などの社会問題についての構造的に理解し、説明することができる。	◎	◎					
アジア経済論	学科選択科目	2～4	アジア経済躍進のメカニズムを理解するとともに、その問題点についても考えることが出来るようになる。	◎	◎	○				
アメリカ経済論	学科選択科目	2～4	アメリカ経済の発展プロセスをふまえた上で、世界に大きな影響を与え続けている現代アメリカ経済の構造とその変化の内実を理解し、説明することができる。	◎	◎					

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。			
アメリカ経済政策論	学科選択科目	2～4	アメリカ経済政策は日本を含め各国経済政策に強い影響を及ぼしている。内外に展開するアメリカ経済政策のあり方を理解し、説明することができる。	◎	◎						
国際貿易論	学科選択科目	2～4	古典派から現代までの貿易理論を歴史的背景と関連させて学ぶとともに、世界経済の現実を理解するうえでの各理論の有効性について検証する。	◎	◎	○					
国際経済政策論	学科選択科目	2～4	1990年代以降の世界経済に成長と不安定性をもたらしている諸問題を分析し、政策対応について検討する。	◎	◎	○					
経済政策論1	学科選択科目	2～4	経済政策論の問題領域を知る。金融政策の基礎と現代的課題を理解することができる。	◎	◎						
経済政策論2	学科選択科目	2～4	国際金融と国際通貨制度の基本的な仕組みを知ることができる。	◎	◎						
租税論1	学科選択科目	2～4	租税理論の視点から現実の租税制度・租税政策を理解し、説明することができる。	◎	◎						
租税論2	学科選択科目	2～4	租税制度・租税政策を国際比較と歴史の視点から理解し、説明することができる。	◎	◎						
地方財政論1	学科選択科目	2～4	地方財政を制度として理解し、説明することができる。	◎	◎						
地方財政論2	学科選択科目	2～4	現代地方財政改革を政治経済として理解し、説明することができる。	◎	◎						
証券経済論	学科選択科目	2～4	金融・証券の果たす基本的機能(金融仲介、情報生産、リスクの管理・配分、流動性の付与)を理解することができる。		◎	◎					
証券市場論	学科選択科目	2～4	証券市場をめぐる近年の動きとその意味について、株式市場、証券会社、証券化、投資信託、M&A等の問題を通じて理解することができる。	○	◎	◎					
外国為替論	学科選択科目	2～4	国境を越えた取引はどのように決済されるか、一国の取引全体を国際収支として把握するのはなぜか、歴史的にそれらはどう変化してきたかを理解する。	◎	◎	○					
国際金融論	学科選択科目	2～4	戦後ドル体制成立、1971年の金ドル交換停止以降の新たなドル体制の展開、2008年恐慌を画期とするドル体制の変容を統一的に理解する。	◎	◎	○					
統計調査論1	学科選択科目	2～4	社会調査の意義・類型・方法などにかかわる基本的な事柄を習得する。			◎	◎				
統計調査論2	学科選択科目	2～4	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を実践的な形で修得する。			◎	◎				
アジア経済史1	自由選択科目1	2～4	1960年代から現在に至るNIES、アセアン諸国、中国、インドの経済発展の実相を探り、その中に垣間見える過去との連続性を理解し、説明することができる。	◎	◎						

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
アジア経済史2	自由選択科目1	2~4	現代アジア経済における新しさと古さの共存を理解するためにアジアを過去にさかのぼって理解し、説明することができる。	◎	◎					
比較経済体制論1	自由選択科目1	2~4	新たな制度主義アプローチで21世紀の体制を生き抜く指針を身に付ける。	◎	◎					
比較経済体制論2	自由選択科目1	2~4	ユーラシアの多様な社会体制とその諸国民に対し、今後日本(人)が如何につき合っていくべきかを考えることが出来るようになる。	◎	◎					
アメリカ経済史	自由選択科目1	2~4	アメリカ経済を長期的・歴史的視点から理解し、資本主義の歴史的段階を理解し、説明することができる。	◎	◎					
現代アメリカ経済史	自由選択科目1	2~4	第二次世界大戦後のアメリカ資本主義の歴史的段階を理解し、資本主義のアメリカ的段階とは何かについても理解し、説明することができる。	◎	◎					
中小企業論1	自由選択科目1	2~4	圧倒的な多数を占める中小企業がどのように認識され、論じられて来たのかを知り、主体的に経済事象に働きかけられるようになる。	○	◎	◎				
中小企業論2	自由選択科目1	2~4	中小企業政策に焦点を当て、産業政策の中に中小企業がどのように位置づけられ、中小企業政策として立案・実行されて来たのかを理解し、説明することができる。	○	◎					
消費者政策論	自由選択科目1	2~4	生活経済学的な視点から消費経済政策をとらえ、統計数値を用いて現代の消費者が抱えている問題を分析する力をつける事ができる。		◎	◎	○			
生活経済論	自由選択科目1	2~4	生活経済学的視点から消費経済政策を捉え、統計数値を用いて現代の消費者が抱えている生活問題を分析する力をつける。	○	◎	◎	○			
比較公共政策論1	自由選択科目1	3~4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を理解し、説明することができる。	◎	◎					
比較公共政策論2	自由選択科目1	3~4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を理解し、説明することができる。	◎	◎					
環境政策論	自由選択科目1	3~4	直接規制、枠組的規制、経済的手法、自主協定、環境権に関する環境政策について、経済学的視点から理解し、説明することができる。	○	◎					
文化経済学	自由選択科目1	3~4	芸術、文化活動の背景にある経済的原理の実態を理解し、芸術、文化、経済が、社会において共に発展し得る方法を考えることが出来るようになる。	○	◎	○				
社会開発論	自由選択科目1	2~4	社会開発の概念とその変遷、具体的な取り組み等を学びつつ、従来の経済開発との差異を理解し、社会開発の基本的な考え方と主要な課題を理解する。	◎	◎					
医療経済論	自由選択科目1	2~4	医療経済学の基本的な考え方を理解し、現在の日本の医療保険制度が抱える課題を考察することが出来るようになる。	○	◎	◎				

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
福祉経済論	自由選択科目1	2~4	経済と福祉の関わりを理解し、社会保険の構造と仕組みを理解し、社会福祉の種類と福祉財政を理解し、説明することができる。	○	◎					
流通経済論	自由選択科目1	2~4	経済社会における生産と消費のへだたりに克服する流通の役割と、それを担う小売業、卸売業の機能を理解し、説明することができる。	○	◎					
流通政策論	自由選択科目1	2~4	国の流通分野での規制・助成である流通政策の内容と意義を学ぶとともに、流通産業の今日的課題についても理解し、説明することができる。	○	◎					
公益産業論	自由選択科目1	2~4	産業部門一般とは異なる性質をもつ公益産業(公益事業)の特徴と、政府規制の意義、料金決定原理、規制緩和の動向を理解することができる。	○	◎	○				
規制の経済学	自由選択科目1	2~4	交通事業での政府規制を理論的に理解し、規制改革のもとでの需給調整と安全規制との関連、交通政策・経営の課題を理解することができる。	○	◎	○				
NGO論	自由選択科目1	2~4	近年国際社会において無視できない影響力を持つに至ったNGOについて学び、国境を越える市民社会の機能について理解し、説明することができる。	◎	◎					
NPO論	自由選択科目1	3~4	平和を創り出す仕組みとしてのNPO(NGO)の理解を通じ、人間の生命とその生存環境(サブシステム)重視の平和学を現場の現実から学び意見を述べるることができる。	◎	◎					
EU経済論	自由選択科目1	2~4	欧州連合(European Union)の基礎である関税同盟の成立からその発展、共通農業政策や共通通商政策とGATT/WTO体制との関係、通貨統合などを理解し、説明することができる。	◎	◎					
地域経済統合論	自由選択科目1	2~4	国際貿易体制において近年極めて顕著になってきた地域経済統合の実態を分析し、WTO体制との関係を理解し、説明することができる。	◎	◎					
中国経済論	自由選択科目1	2~4	中国経済は日本だけでなく世界経済との相互依存関係を急速に深めている。中国経済への理解を高めることができるようになる。	◎	◎					
中国経済政策論	自由選択科目1	2~4	中国経済は日本だけでなく世界経済との相互依存関係を急速に深めている。中国経済への理解を高めることができるようになる。	◎	◎					
国際政治経済学	自由選択科目1	2~4	国際経済における政治・経済・規範の関係について理解し、説明することができる。	◎	◎					
国際援助論	自由選択科目1	2~4	国際援助の視点と実施の構造、国際援助が引き起こす様々な問題とその解決のための方法を理解し、説明することができる。	◎	◎	○				
国際機関論	自由選択科目1	2~4	多数の国際機関のうち主要経済関係機関を対象とし、その役割・機能等の基礎知識を学ぶほか、業務内容の変遷、近年の問題点について理解し、説明することができる。	◎	◎					
会計学1	自由選択科目1	2~4	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎				

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
会計学2	自由選択科目1	2～4	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎				
中級簿記1	自由選択科目1	2～4	「簿記」に引き続き、基礎的な取引の記帳について、商業簿記2級以上の知識を習得する。		◎					
中級簿記2	自由選択科目1	2～4	中級簿記1に引き続き、商業簿記の2級以上の論点を習得する。		◎					
ファイナンス基礎	自由選択科目1	2～4	ファイナンスなど経営に関連した科目を履修する準備として企業経営の全体像を大づかみに理解し、説明することができる。		◎		○			
経営分析論1	自由選択科目1	2～4	経営分析の考え方と分析指標について理解し、説明することができる。		◎		○			
経営分析論2	自由選択科目1	2～4	企業価値の評価に用いられる分析手法を理解し、説明することができる。		◎	○	◎			
財務会計論1	自由選択科目1	2～4	財務会計理論に関する歴史の変遷を理解するとともに現在の会計の制度的特質を理解し、説明することができる。		◎					
財務会計論2	自由選択科目1	2～4	現在の財務会計の具体的論点を理解し、現在の会計がかかえる問題点を理解し、説明することができる。		◎					
管理会計論1	自由選択科目1	2～4	企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて理解し、説明することができる。		◎					
管理会計論2	自由選択科目1	2～4	管理会計論1に引き続き、企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて理解し、説明することができる。		◎					
原価計算論1	自由選択科目1	2～4	原価計算という行為の特質を、「原価計算基準」の歴史に即して理解し、説明することができる。		◎					
原価計算論2	自由選択科目1	2～4	戦略的思考の発展と原価概念の広がりについて理解し、説明することができる。		◎	○				
会計監査論1	自由選択科目1	2～4	会計監査の目的、意義、内容等についての基本的知識を修得し、監査が果たす役割の重要性について理解し、説明することができる。		◎					
会計監査論2	自由選択科目1	2～4	財務諸表監査の制度や歴史等についての基本的知識を修得し、資本主義経済の中で監査が果たす役割の重要性について理解し、説明することができる。	○	◎					
租税法1	自由選択科目1	2～4	わが国の財政状況および税務行政の沿革を概観したうえで、租税に関する法的なしくみを理解し、説明することができる。		◎					

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
租税法2	自由選択科目1	2～4	所得税法、法人税法を中心にそれぞれの租税に関する法的なしくみを理解し、説明することができる。		◎					
上級簿記1	自由選択科目1	3～4	高度な簿記処理を習得し、大規模な株式会社での会計処理を理解できるようにする。		◎					
上級簿記2	自由選択科目1	3～4	高度な簿記処理を習得し、大規模な株式会社での会計処理を理解できるようにする。		◎					
国際会計論1	自由選択科目1	2～4	会計国際化の背景と必要性、その理論的問題点について理解を深める。	○	◎					
国際会計論2	自由選択科目1	2～4	会計基準の統一化にかかわる個別具体的な会計問題について理解し、説明することができる。	○	◎					
会計情報論1	自由選択科目1	2～4	利用者としての立場から会計情報を検討し、会計情報に基づく企業価値評価に必要な基礎的手法の習得する。		◎		◎			
会計情報論2	自由選択科目1	2～4	公表された会計情報を利用して、実際の企業の価値評価を行えるようになる。		◎		◎			
税務会計論	自由選択科目1	2～4	法人税法の理論及び計算構造を理解し、説明することができる。		◎					
会計政策論1	自由選択科目1	2～4	巨大株式会社の会計政策について、ファイナンス構造との関連から、実証的、批判的に理解し、説明することができる。	○	◎					
会計政策論2	自由選択科目1	2～4	巨大株式会社の会計政策の実態を、会計制度とファイナンスの関係から個別企業に即して実証的に分析することができる。	○	◎	○				
環境会計論	自由選択科目1	3～4	環境会計の成立、現状、今後の展開および企業が実際に行っている環境情報開示の現状について理解し、説明することができる。	○	◎					
非営利会計論	自由選択科目1	3～4	非営利法人の数と規模の拡大を前提に、企業会計と非営利会計との根本的相違を理解し、説明することができる。	○	◎					
タックス・プランニング	自由選択科目1	2～4	納税者の視点から、タックス・プランニングに係る基本原則を理解する。税法を正しく解釈し、その適用に必要な基礎的な知識を習得する。		◎					
会計史1	自由選択科目1	2～4	現代企業会計の本質を理解し、かつその将来的道筋を洞察する手段として、そこに至る会計の発展過程を理解し、説明することができる。	○	◎					
会計史2	自由選択科目1	2～4	現代企業会計の本質を理解し、かつその将来的道筋を洞察する手段として、そこに至る会計の発展過程を理解し、説明することができる。	○	◎					

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
コーポレート・ファイナンス1	自由選択科目1	2～4	コーポレート・ファイナンス2とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン／ウーマンといえるレベルにまで到達する。		◎					
コーポレート・ファイナンス2	自由選択科目1	2～4	コーポレート・ファイナンス1とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン／ウーマンといえるレベルにまで到達する。		◎					
金融工学	自由選択科目1	2～4	金融工学の基本的知識・方法論を修得することによって、金融市場の動向や金融商品について理解を深めることができる。	○	◎					
ポートフォリオ論	自由選択科目1	2～4	モダンポートフォリオ理論の考え方を修得すると同時に、実際の資金運用や、ファンドマネジャーの投資行動を理解することができる。	○	◎					
金融機関論	自由選択科目1	2～4	日本の金融機関や金融制度に関する基礎知識を習得することができる。預金取扱金融機関を巡る問題の分析を通じて論理的思考力を養うことができる。	○	◎	◎				
金融政策論	自由選択科目1	2～4	金融政策を運営している日本銀行の目的・機能、金融政策の目標・手段・有効性や、中央銀行が抱える現代的課題を理解することができる。	○	◎	◎				
年金経済論	自由選択科目1	2～4	公的年金に関する基本的な知識を身につけ、現在の日本の年金制度の特徴や問題点を把握し、これからの年金改革の方向性について理解し、説明することができる。	○	◎	◎				
保険論	自由選択科目1	2～4	保険理論を理解し、次いで保険会社の経営問題を、生命保険業・損害保険業それぞれの収益構造から理解することができる。	○	◎					
金融史	自由選択科目1	3～4	日本の金融制度・金融システム・金融政策を歴史的・長期的な視点から理解し、説明することができる。	○	◎					
現代企業論1	自由選択科目1	2～4	21世紀に生きる我々が「現代企業とは何か」との問いに対し、その答えを考えることができるようになる。	◎	◎	○				
現代企業論2	自由選択科目1	2～4	現代企業の発展要因として、企業自身の内部要因に加え、国家戦略との連携という外部要因にも求め得る点を理解し、説明することができる。	○	◎					
国際経営論1	自由選択科目1	2～4	国際経営学の基礎知識の修得により、学問体系の大まかなイメージを掴み、その存在意義を理解し、説明することができる。	○	◎					
国際経営論2	自由選択科目1	2～4	多国籍企業による国際経営戦略について、時系列的にその歴史・理論・ケースを理解し、説明することができる。	○	◎					
マーケティング論1	自由選択科目1	2～4	企業活動におけるマーケティングの役割を理解するとともに、マーケティングの基本的な考え方について理解し、説明することができる。	○	◎					
マーケティング論2	自由選択科目1	2～4	マーケティングの分析用具を使い、現代のマーケティング課題について考える力を習得する。	○	◎	○				

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
コーポレート・ガバナンス論1	自由選択科目1	2~4	現代の企業形態を代表する株式会社制度に焦点を合わせ、その法制上の構造と企業経営の実態を理解し、説明することができる。	○	◎					
コーポレート・ガバナンス論2	自由選択科目1	2~4	グローバル化した市場の中での日本の株式会社の競争的現実を理解し、説明することができる。	○	◎					
企業法1	自由選択科目1	2~4	私達の経済生活に密接な関係を有する企業、特に、会社企業を対象に、法律学(企業法)の観点から理解し、説明することができる。	○	◎					
企業法2	自由選択科目1	2~4	企業にとって大切な財産のうち、「知的財産」について、法律の観点から理解し、説明することができる。	○	◎					
現代経済論	自由選択科目1	2~4	資本主義が抱える課題と、その解明に向けた経済学の潮流を理解する、現代経済の構造や動向について説明できるようになる。	○	◎	◎				
現代経済演習1	自由選択科目1	2~4	輪読や討論、グループワークなどを通じて資本主義が抱える課題を理解し、その解明に向けて研究・調査を行うことのできるスキルを身につけることができる。		◎	◎				
現代経済演習2	自由選択科目1	2~4	輪読や討論、グループワークなどを通じて資本主義が抱える課題を理解し、その解明に向けて研究・調査を行うことのできるスキルを向上させることができる。		◎	◎				
ゼミナールA	自由選択科目1	2~3	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指す。	○	◎	◎		○		
ゼミナールB	自由選択科目1	4	ゼミナールAで育成されたアカデミック・スキルのより一層の向上を目指すとともに、卒業論文等の個人研究の充実を図る。	○	◎	◎		○		
ゼミナール(単年度)	自由選択科目1	2~4	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指す。	○	◎	◎		○		
外書講読・独A	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れる。辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	○	◎					
外書講読・独B	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れる。辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	○	◎					
外書講読・仏A	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れる。辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	○	◎					
外書講読・仏B	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れる。辞書を使いながら、経済関連書を読めるようになる。	○	◎					
調査実習	自由選択科目1	3~4	社会調査に関する基礎を学習するとともに、実際に調査の企画から実施、集計と分析まで行うことで、社会調査を体系的に学習する。			◎	◎			

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
経済地理学1	自由選択科目1	2～4	東アジアを中心に経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	○	◎					
経済地理学2	自由選択科目1	2～4	東アジアを中心に経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	○	◎					
課題解決演習A	自由選択科目1	1～4	協力企業による講義やグループディスカッションを通じて、産業の多様性や関係性について学び、社会・経済の全体構造について理解を深めることができる。	○	◎	◎		◎		
課題解決演習B	自由選択科目1	2～4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎		
課題解決演習C	自由選択科目1	2～4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎		
企画講座1	自由選択科目1	2～4	「将来親の会社を継ぐかもしれない」または「継ぐ予定はないが、経営に関心がある」学生が、会社経営や事業承継の意義・課題について理解し、説明することができる。		◎	◎		◎		
企画講座2	自由選択科目1	2～4	国の財政監督機関である会計検査院が行っている会計検査の役割、その実施方法、報告書の内容などを理解し、国民が納めた税金が適正かつ効率的・効果的に使われているかをチェックすることの重要性について考えることができる。	○	◎	◎		◎		
企画講座3	自由選択科目1	2～4	公共政策の財源を調達しつつ、所得・富の再分配を行い、経済の安定化等に資する租税制度及びその運営を支える税理士制度について学び、経済社会における租税の重要性を理解する。	○	○	◎		◎		
企画講座4	自由選択科目1	3～4	会計が、企業を取り巻く利害関係者との間で行われ、人と人との会計が背後に横たわっているという意味ですぐれて社会的な行為であることを理解する。	○	◎			◎		
インターンシップ	自由選択科目1	2～4 (2,3年次推奨)	就業体験を通じて企業活動の現場を体感し、大学における学習の意義を再確認すると共に自分自身のキャリアデザインを考え、実践することができる。		◎	◎		◎		
職業指導概論	自由選択科目1	3～4	個人の職業行動への介入活動である職業指導の歴史的発展と今日のキャリア形成とキャリア発達の理論とその促進の技法について習得する。		◎			◎		
憲法1	自由選択科目1	1～4	近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを理解し、説明することができる。		◎					
憲法2	自由選択科目1	1～4	近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを理解し、説明することができる。		◎					
民法1	自由選択科目1	1～4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それに対処するための基本的な法的発想力を習得する。		◎					
民法2	自由選択科目1	1～4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それに対処するための基本的な法的発想力を習得する。		◎					

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。		
経済法1	自由選択科目1	3~4	経済法を中心とする独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制について理解し、説明することができる。	○	◎					
経済法2	自由選択科目1	3~4	経済法を中心とする独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制について理解し、説明することができる。		◎					
行政学1	自由選択科目1	3~4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	○				
行政学2	自由選択科目1	3~4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	○				
地方自治論	自由選択科目1	3~4	地方分権改革を経た日本の自治体についての実証的、理論的な研究を理解し、説明することができる。		◎					
労働法	自由選択科目1	3~4	労働法の基本的な枠組み(法制度・判例)を理解するとともに、それらの背後にある考え方・問題点について考察する力を身につけることができる。		◎	○				
日本史	自由選択科目1	2~4	日本史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎				
世界史	自由選択科目1	2~4	世界史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎				
政治学	自由選択科目2	2~4	今日の日本政治の構造とダイナミズムを、理論的な枠組みにそって、また比較研究をつうじて理解し、説明することができる。	◎	◎					
地誌学1	自由選択科目2	1~4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになる。	○	◎	◎				
地誌学2	自由選択科目2	1~4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになる。	○	◎	◎				
地理学概説1	自由選択科目2	1~4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎				
地理学概説2	自由選択科目2	1~4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎				
自然地理学1	自由選択科目2	2~4	自然地理学の基礎を学び、地球全体の環境を意識できるようになる。	○	◎	◎				
自然地理学2	自由選択科目2	2~4	自然地理学の基礎を学び、地球全体の環境を意識できるようになる。	○	◎	◎				
心理学1	自由選択科目2	1~4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○				

経済学部経済学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設定することができる。		
心理学2	自由選択科目2	1~4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○				
宗教思想1	自由選択科目2	1~4	現在のわれわれの知の枠組みを決定した近代の西欧思想に触れ、その中で宗教の問題がどのような位置にあるかを考えること。	○	○	○				
宗教思想2	自由選択科目2	1~4	受講者が現代の宗教思想に自分で触れ、考えるようになること。	○	○	○				
哲学概論1	自由選択科目2	1~4	西洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○				
哲学概論2	自由選択科目2	1~4	東洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○				

カリキュラム・マップ

経済学部教育目的

幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出す。

学修成果

「学士(経済学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

- ① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。
- ② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。
- ③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。
- ④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。
- ⑤ 自らのキャリアを設計することができる。

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経済学1	必修科目	1	マルクス経済学の基礎概念と理論及び歴史的背景についてバランスよく習得し、現代の経済問題に関する議論に参加しうる経済学的視点を養う。	◎	◎	◎	△	
経済学2	必修科目	1	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を中心に、経済学の基本的な考え方を学ぶ。それを通じて様々な経済問題に対して、自分なりの意見を持てるようになる。	◎	◎	◎	△	
政策分析概論	必修科目	1	政策分析の学び方にふれつつ、基本的な視点と現在の課題とを把握できる。学科科目構成の全体像をつかみ、各自の研究テーマに沿う科目履修に役立てる。	◎	◎	◎	△	
社会経済学1	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	経済学の体系を『資本論』を基礎にして学び、資本主義という経済体制の構造を理解する。	◎	◎	◎		
社会経済学2	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	経済学の体系を『資本論』を基礎にして学び、資本主義という経済体制の構造を理解する。	◎	◎	◎		
初級ミクロ経済学1	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	標準的なミクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	
初級ミクロ経済学2	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	入門的なミクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初~中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
初級マクロ経済学1	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	標準的なマクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
初級マクロ経済学2	基本選択科目	2~4 (2年次推奨)	入門的なマクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初~中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
基礎ゼミナール1	共通選択科目1	1	大学における学習に円滑に適応できるように、アカデミック・スキルズの基本と方法を身につけることができる。			◎	◎	○
基礎ゼミナール2	共通選択科目1	1	アカデミック・スキルズの基本を踏まえてレポートを作成し、2年次以降の専門ゼミナールでの学習に向けた準備をすることができる。			◎	◎	○
情報処理入門1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	パソコンを活用した実習により、文書作成とデータ処理の方法を学ぶ。		-	◎	◎	
情報処理入門2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済データ、財務データ、会計データを使った応用分析ができる能力を身につける。		-	◎	◎	
経済数学入門	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済学・経営学で最低限必要とされる数学の知識・考え方の基礎を身につける。		-	◎	◎	
経済史1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	太古から現代まで人類の経済生活がいかに変化したかを知ること、複雑な現代世界経済を立体的に理解する手掛かりを得る。	◎	◎	○		
経済史2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済学の各分野を学ぶ前提として、経済についての歴史的な基礎知識を身につけ、かつ経済を歴史的に捉える多様なアプローチを学び、柔軟な知性を磨く。	◎	◎	○		
統計学1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	記述統計学の理論と技法を身につける。		◎	◎	◎	
統計学2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	統計計算について、推測統計学の基本的な考え方(思想)と基礎的な概念を身につける。		◎	◎	◎	
外書講読・英A	共通選択科目1	2~4 (2,3年次推奨)	英語文献の講読を通じて、自分で英語経済学文献にチャレンジするための基礎的訓練ができる。	◎	◎			
外書講読・英B	共通選択科目1	2~4 (2,3年次推奨)	経済に関する英語文献の講読を通して、経済英語に親しみ、経済学の基礎的な概念を理解できるようになる。	◎	◎			
経営学1	共通選択科目1	1~4	社会と企業の間を中心、企業の経営を理解し、実践するための知識を習得できる。	○	◎	◎		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経営学2	共通選択科目1	1~4	企業と個人を中心に理論を学習するとともに現実の問題について考察できるようになる。	○	◎	◎		
簿記1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎	
簿記2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎	
経済政策論1	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	グローバル化の下での経済政策について理解できる。	◎	◎			
経済政策論2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	産業政策と競争力政策を中心に通商政策を理解する。	◎	◎			
財政学1	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	財政の基本的な制度とその機能について理解を深め、現実に日本が直面する財政問題について考える力を身につけることができる。	○	◎	○		
財政学2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	財政の基本的な制度とその機能について理解を深め、現実に日本が直面する財政問題について考える力を身につけることができる。	○	◎	◎		
社会政策論1	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	社会保障の定義と分類、現金給付制度(年金、雇用保険など)の仕組みなど社会政策(社会保障)の諸制度・理論を習得できる。	○	◎	○		
社会政策論2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	現物給付の社会保障制度の特徴と内容を理解するとともに、社会保障制度を歴史的に理解する。	○	◎	○		
産業経済論1	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	これまで日本の産業システムはなぜ競争力を発揮してきたのか。その理由や日本企業・産業のあり方を知ることができる。	○	◎	○		
産業経済論2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	これまで日本の産業システムはなぜ競争力を発揮してきたのか。その理由や日本企業・産業のあり方を知ることができる。	○	◎	○		
国際経済論(1年)	共通選択科目2	1	各国経済を結びつける国際フロー(貿易・直接投資・間接投資)に関する基礎知識を学び、そのうえで1945~70年の国際分業の特徴を理解できる。	◎	◎	◎	△	
国際経済論(2~4年)	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	各国経済を結びつける国際フロー(貿易・直接投資・間接投資)に関する基礎知識を学び、そのうえで1945~70年の国際分業の特徴を理解できる。	◎	◎	◎	△	

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
世界経済論(1年)	共通選択科目2	1	1980年代後半以降加速したグローバリゼーションについて学び、それがIMF等の国際制度・各国経済・国際分業に与えた影響を理解できる。	◎	◎			
世界経済論(2~4年)	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	1980年代後半以降加速したグローバリゼーションについて学び、それがIMF等の国際制度・各国経済・国際分業に与えた影響を理解できる。	◎	◎			
政策情報処理A	共通選択科目2	2~4 (2,3年次推奨)	情報処理に関連したコンピュータリテラシーのスキルアップ、および各種政策関連諸統計の理解ができる。			○	◎	
政策情報処理B	共通選択科目2	2~4 (2,3年次推奨)	コンピュータリテラシーのスキルアップ、および各種データ分析手法の習得ができる。			◎	◎	
経済英語1	共通選択科目2	2~4	経済成長率を高めるのではなく、国民の幸福度を高めることを目標にしているEU経済戦略とその意義を理解する。それと対称的に見える米国政策を知る。	◎				
経済英語2	共通選択科目2	2~4	気候変動の原因と涼しい地域を回復するために必要な技術開発の課題を知る。そのため、エネルギー経済の基本問題と炭素循環の概念を理解する。	◎				
経済英語3	共通選択科目2	2~4	英語を使って会社員としての基本業務をひとつとおりこなせるようになるための、初歩的訓練を行う。会話や文書作成の基本を身につける。	◎				
経済英語4	共通選択科目2	2~4	聴く、読む、書く、話すという英語力のうち、とくに話す力と書く力を向上させる。TOEIC等外部試験での点数向上も副次的目標として考慮する。	◎				
経済英語5	共通選択科目2	2~4	政治経済、経営の知的枠組みを理解し、コンテンポラリーな話題について英語で理論的に議論できる力を養う。	◎				
経済英語6	共通選択科目2	2~4	政治経済、経営の知的枠組みを理解し、コンテンポラリーな話題について英語で理論的に議論できる力を養う。	◎				
Short-term Study Abroad Program in Economics(USA)	共通選択科目2	2~4	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
Short-term Study Abroad Program in Economics(UK)	共通選択科目2	2~4	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
Short-term Study Abroad Program in Economics(CA) 海外経済文化研究	共通選択科目2	2~4	海外の経済と文化を理解するとともに、国際的な場で活躍するために必要なスキルを身につける。	◎	◎			○

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
Short-term Study Abroad Program in Economics(AU)	共通選択科目2	1～3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
Global Communication Internship(PHL)	共通選択科目2	1～3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
租税論1	学科選択科目	2～4	租税理論の視点から現実の租税制度・租税政策を理解できる。	○	◎	○		
租税論2	学科選択科目	2～4	租税制度・租税政策を国際比較と歴史の視点から理解できる。	○	◎	◎		
地方財政論1	学科選択科目	2～4	地方財政を制度として理解できる。	○	◎	○		
地方財政論2	学科選択科目	2～4	現代地方財政改革を政治経済として理解できる。	○	◎	◎		
都市政策論1	学科選択科目	2～4	都市経済学の理論を用いて都市の成り立ちを理解するとともに、現実の都市をとりまく複雑な問題を理解し、政策によって解決を図る力を身につける。	○	◎	◎		
都市政策論2	学科選択科目	2～4	大都市において住宅、商業地及び農地の立地が決定される過程について理解するとともに、産業や交通、資源価格などの変化が都市環境や資源利用に与える影響について理解する。	○	◎	◎		
環境経済学1	学科選択科目	2～4	今日、我々が直面する環境問題について、経済学アプローチから読み解くことができる。		◎	◎	○	
環境経済学2	学科選択科目	2～4	環境経済学の理論と現実を学ぶことができる。環境と経済は密接不可分であり、経済のあり方が環境の状況を決定するが、そこに技術が大きく関わっていることを学ぶことができる。		◎	◎	○	
消費者政策論	学科選択科目	2～4	消費者問題の発生の背景と変遷、今日の消費者問題の実態を理解し、それに応じて進展してきた消費者政策を体系的に把握する。	○	◎	◎	○	
生活経済論	学科選択科目	2～4	生活経済学的視点から消費経済政策を捉え、統計数値を用いて現代の消費者が抱えている生活問題を分析することができる。	○	◎	◎	○	
比較公共政策論1	学科選択科目	3～4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を考察できる。	○	◎	◎		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
比較公共政策論2	学科選択科目	3～4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を考察できる。	○	◎	◎		
租税法1	学科選択科目	2～4	わが国の財政状況および税務行政の沿革を概観したうえで、租税に関する法的なしくみを理解できる。講義では、税制改正論議など最近の動向についても考察できる。		◎			
租税法2	学科選択科目	2～4	所得税法、法人税法を中心にそれぞれの租税に関する法的なしくみを理解できる。税制改正論議など最近の動向についても考察できる。		◎			
公共経済学1	学科選択科目	2～4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを考察できる。	○	◎	◎		
公共経済学2	学科選択科目	2～4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを考察できる。	○	◎	◎		
NPO論	学科選択科目	3～4	ボランティアの本来の意味とその課題について理解する。NPOに関する基礎的知識を身につけると同時にNPO研究の射程について理解する。	◎	-	◎		
環境政策論	学科選択科目	3～4	直接規制、枠組的規制、経済的手法、自主協定、環境権に関する環境政策について、経済学的視点から考えることができるようになる。	◎		◎		
文化経済学	学科選択科目	3～4	芸術、文化活動の背景にある経済的原理の実態を理解し、芸術、文化、経済が、社会において共に発展し得る方法を探求することができる。		◎	◎		
医療経済論	学科選択科目	3～4	医療経済学の基本的な考え方を理解し、現在の日本の医療保険制度が抱える課題を考察できる。	-	◎	◎		
福祉経済論	学科選択科目	3～4	経済と福祉の関わり、社会保険の構造と仕組み、社会福祉の類型と福祉財政を理解できる。	-	◎	◎		
年金経済論	学科選択科目	3～4	公的年金に関する基本的な知識を身につけ、現在の日本の年金制度の特徴や問題点を把握し、これからの年金改革の方向性について考察できるようになる。	-	◎	◎		
公共政策特講A	学科選択科目	3～4	経済先進国をめぐる比較政治経済研究を学習し、現代日本が直面する様々な問題について、より多角的に考える力をつける。		◎	○		
農業経済論	学科選択科目	2～4	農業の現状と課題について基礎的知識を身につけるとともに、食料需給や農産物貿易等をめぐる社会経済問題を経済学的視点から考察することができる。	○	◎	◎		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経営政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
農業政策論	学科選択科目	2～4	農業政策とそれに関連する政策領域として、資源・環境保全や地域振興等の政策について国際的視野から理解することができる。	○	◎	◎		
中小企業論1	学科選択科目	2～4	圧倒的な多数を占める中小企業がどのように認識され、論じられてきたのかを知り、主体的に経済事象に働きかけられるようになる。	○	◎	◎		
中小企業論2	学科選択科目	2～4	中小企業政策に焦点を当て、産業政策の中に中小企業がどのように位置づけられ、中小企業政策として立案・実行されてきたのかを検証できる。	○	◎	◎		
労働経済論1	学科選択科目	2～4	労働経済に関する学問的基礎知識を習得し、日本の雇用システムを理論的かつ構造的に把握する能力を身につける。	○	◎	◎		
労働経済論2	学科選択科目	2～4	日本の労働経済の現状を認識し、学問的な方法に基づいて多面的に分析する能力を身につける。	○	◎	◎		
流通経済論	学科選択科目	2～4	日常生活に馴染みの深い流通や商業がなぜ存在し、どのような内容を持っているのか、といった基礎知識を身につける。	○	◎	◎		
流通政策論	学科選択科目	2～4	流通産業に対する政府介入つまり流通政策を検討することにより、介入が行われる理由や介入の多様さを理解する。	○	◎	◎		
公益産業論	学科選択科目	3～4	産業部門一般とは異なる性質をもつ公益産業(公益事業)の特徴と、政府規制の意義、料金決定原理、規制緩和の動向を理解できる。	○	◎	○		
規制の経済学	学科選択科目	3～4	交通事業での政府規制を理論的に理解し、規制改革のもとでの需給調整と安全規制との関連、交通政策・経営の課題を理解できる。	○	◎	○		
現代企業論1	学科選択科目	2～4	「現代企業とは何か」を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	◎	◎		
現代企業論2	学科選択科目	2～4	現代企業の発展要因として、企業自身の内部要因に加え、国家戦略との連携という外部要因にも求め得る点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	◎	◎		
金融機関論	学科選択科目	3～4	日本の金融機関や金融制度に関する基礎知識を修得し、預金取扱金融機関を巡る問題の分析を通じて論理的思考力を獲得できる。	○	◎	◎		
金融政策論	学科選択科目	3～4	金融政策を運営している日本銀行の目的・機能、金融政策の目標・手段・有効性やそれらを巡る議論をトレースすることで論理的思考力を鍛えることができる。	○	◎	◎		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
産業政策特講A	学科選択科目	3~4	国内・海外農業問題、流通問題、環境問題が一連の社会的行為であることを理解することができる。	○	○	◎		
国際貿易論	学科選択科目	2~4	古典派から現代までの貿易理論を歴史的背景と関連させて学ぶとともに、世界経済の現実を理解するうえでの各理論の有効性について検証する。	◎	○	◎		
国際経済政策論	学科選択科目	2~4	1990年代以降の世界経済に成長と不安定性をもたらしている諸問題を分析し、政策対応について検討する。	◎	○	◎		
開発経済学	学科選択科目	2~4	開発経済学の基本的な知識を身につけるとともに、貧困などの社会問題についての構造的に理解し、説明することができる。	◎	○	◎		
アジア経済論	学科選択科目	2~4	アジア経済躍進のメカニズムを理解するとともに、その問題点について考察できる。	◎	◎	○		
外国為替論	学科選択科目	2~4	外国為替、国際収支、外国為替制度といった国際金融の理論・制度を学ぶことによって、国際金融の様々な動きを理解し、説明できるようになる。	◎	○	◎		
国際金融論	学科選択科目	2~4	国際金融の歴史・現状を学ぶことによって、これまでバブルを繰り返してきた世界経済と国際通貨システムの将来について理解し、自分の意見を説明できるようになる。	◎	○	◎		
社会開発論	学科選択科目	3~4	社会開発の概念とその変遷、具体的な取り組み等を学びつつ、従来の経済開発との差異を理解し、社会開発の基本的な考え方と主要な課題を理解する。	◎	○	◎		
国際政治経済学	学科選択科目	3~4	国際経済における政治・経済・規範の関係について理解を深めることができる。	◎	○	◎		
国際機関論	学科選択科目	3~4	主要経済関係国際機関の役割・機能等の基礎知識を学ぶ。さらに近年の世界金融経済危機について国際機関の目を通して理解する	◎	○	◎		
国際援助論	学科選択科目	3~4	国際援助の視角と実施の構造、国際援助が引き起こす様々な問題とその解決のための展望を学ぶことができる。	◎	○	◎		
NGO論	学科選択科目	3~4	近年国際社会において無視できない影響力を持つに至ったNGOについて学び、国境を越える市民社会の機能について理解し、説明することができる。	◎	○	◎		
国際政策特講A	学科選択科目	3~4	経済政策における国際的なハーモナイゼーション(協調行動)の進展・意義・限界について理解を深める。	◎	○	◎		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
金融論1	学科選択科目	1～4	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解し、特に基礎的な制度や理論を理解できる。	○	◎	◎		
金融論2	学科選択科目	1～4	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解できる。	○	◎	○		
日本経済論1	学科選択科目	1～4 (1,2年次推奨)	日本経済を分析していく上で必要な理論や経済指標を具体的に検討しながら、日本経済の基本的構造や特性を理解できる。	○	◎	○		
日本経済論2	学科選択科目	1～4 (1,2年次推奨)	日本経済論1をふまえて、戦後から今日に至る日本経済の実体面と金融面の動きを構造的に解剖し、今後の日本経済の進路を探ることができる。	○	◎	○		
経済統計学1	学科選択科目	3～4	現代日本経済の実態を各種主要経済指標から概観し、各種経済統計を体系的に理解できる。			◎	◎	
経済統計学2	学科選択科目	3～4	現代日本経済の実態を各種主要経済指標から概観し、各種経済統計を体系的に理解できる。			◎	◎	
比較経済体制論1	学科選択科目	3～4	新たな制度主義アプローチで21世紀の体制を生き抜く指針を理解し、自分の意見を説明することができる。	◎	○	◎		
比較経済体制論2	学科選択科目	3～4	ユーラシアの多様な社会体制とその諸国民に対し、今後日本(人)が如何につき合っていくべきかを理解し、自分の意見を説明することができる。	◎	○	◎		
計量経済学1	学科選択科目	2～4	多元回帰法を中心とする計量経済分析法の基礎を習得し、経済データを用いて基礎的な計量分析が行えるようになる。			◎	◎	
計量経済学2	学科選択科目	2～4	相関・回帰分法、時系列分析を中心とする計量経済分析法を学習し、基本的な計量分析を自立的に行えるようになる。			◎	◎	
アメリカ経済論	学科選択科目	3～4	アメリカ経済の発展プロセスをふまえた上で、世界に大きな影響を与え続けている現代アメリカ経済の構造とその変化の実態を理解できる。	◎	◎	○		
アメリカ経済政策論	学科選択科目	3～4	日本を含め各国経済政策に強い影響を及ぼしているアメリカ経済政策のあり方を理解できる。	◎	◎	○		
EU経済論	学科選択科目	3～4	欧州連合(European Union)の基礎である関税同盟の成立からその発展、共通農業政策や共通通商政策とGATT/WTO体制との関係、通貨統合などを理解し、説明することができる。	◎	◎	○		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
地域経済統合論	学科選択科目	3～4	国際貿易体制において近年極めて顕著になってきた地域経済統合の実態を分析し、WTO体制との関係を探り、EU、NAFTA、各国のFTA等について理解し、説明することができる。	◎	◎	○		
中国経済論	学科選択科目	3～4	日本や世界経済との相互依存関係を急速に深める中国経済への理解を深めることができる。	◎	◎	○		
中国経済政策論	学科選択科目	3～4	日本や世界経済との相互依存関係を急速に深める中国経済への理解を深めることができる。	◎	◎	○		
憲法1	学科選択科目	1～4	近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを理解し、説明することができる。		◎	◎		
憲法2	学科選択科目	1～4	近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを理解し、説明することができる。		◎	◎		
経済法1	学科選択科目	3～4	経済法を中心とする独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制について理解し、説明することができる。		◎	◎		
経済法2	学科選択科目	3～4	経済法を中心とする独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制について理解し、説明することができる。		◎	◎		
行政学1	学科選択科目	3～4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	◎		
行政学2	学科選択科目	3～4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	◎		
地方自治論	学科選択科目	3～4	地方分権改革を経た日本の自治体についての実証的、理論的な研究を理解し、説明することができる。		◎	◎		
労働法	学科選択科目	3～4	労働法の基本的な枠組み(法制度・判例)を理解するとともに、それらの背後にある考え方・問題点について考察する力を身につけることができる。		◎	◎		
経済学史1	自由選択科目1	1～4	イギリス通商政策についてのエコノミストたちの議論の歴史を通じて、経済学がいかに発展してきたのかを理解することができる。	◎	◎			
経済学史2	自由選択科目1	1～4	イギリス通商政策についてのエコノミストたちの議論の歴史を通じて、経済学がいかに発展してきたのかを理解することができる。	◎	◎			

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
日本経済史1	自由選択科目1	2~4	太閤検地から明治初期に至るまでの日本経済の歩みを概観し、経済現象を歴史的に観察する能力を身につけることができる。	◎	◎	○		
日本経済史2	自由選択科目1	2~4	産業革命期から戦後復興期までの日本経済の歩みを概観し、経済現象を歴史的に観察する能力を身につけることができる。	◎	◎	○		
証券経済論	自由選択科目1	3~4	金融・証券の果たす基本的機能(金融仲介, 情報生産, リスクの管理・配分, 流動性の付与)について理解し、分析できるようになる。		◎	◎		
証券市場論	自由選択科目1	3~4	証券市場をめぐる近年の動きとその意味について、株式市場, 証券会社, 証券化, 投資信託, M&A等の問題を通じて理解し、分析できるようになる。	○	◎	◎		
景気変動論1	自由選択科目1	3~4	景気変動を学ぶ基礎としてマクロ経済学を復習し、その上で、なぜ経済は変動するのかについて、基本的な仕組みを理解し、説明できるようになる。			◎	○	
景気変動論2	自由選択科目1	3~4	景気変動の理論を「循環」と「成長」を中心に理解し、最近の成果である貨幣・金融の影響を理解し、説明できるようになる。			◎	○	
応用社会経済学1	自由選択科目1	3~4	現代経済の仕組みを根本から、すなわち労働という、システムの発生点から把握する。	○	◎	◎		
応用社会経済学2	自由選択科目1	3~4	現代経済の仕組みを、所有という、システムを正当化する制度的形態の観点から、把握する。	○	◎	◎		
中級ミクロ経済学	自由選択科目1	3~4	ミクロ経済学の初~中級レベルの内容を理解できる。ミクロ経済学1の知識は前提としない。			◎	◎	
中級マクロ経済学	自由選択科目1	3~4	オーソドックスなマクロ経済学の基礎を学ぶとともに、ケインズ経済学と比較しつつ、その成果と課題を考えることができる。			◎	◎	
現代資本主義論	自由選択科目1	3~4	資本主義は何よりも貨幣経済であり貨幣論抜きには何事も語れない。貨幣理論から資本主義の現在の危機の構造を理解し、説明することができる。	○	◎	◎		
国際マクロ経済学	自由選択科目1	3~4	マクロ経済学や国際収支表の基礎を確認しながら、対外経済関係を考えるための理論的基礎を学習すると同時に政策的示唆について理解することができる。	◎		◎		
数理経済学	自由選択科目1	3~4	経済学の思考方法と数学的論理の血縁関係を前提に、経済学の論理の核心部分を理解し、説明することができる。			◎	◎	

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
社会思想史	自由選択科目1	3~4	古典の文言を通して思想を理解し、その基礎にある人間観に触れることができる。ドリルを繰り返すことで読み取る力をつけることができる。	○	◎	◎		
現代社会思想	自由選択科目1	3~4	合理主義と理性がもたらした「現代」の諸問題がどう解釈され、どんな解決方法を生んだのか、現代人の常識としてその基本を理解できる。	○	◎	◎		
近代経済学説史	自由選択科目1	3~4	現代のミクロ経済学・マクロ経済学の重要概念を、その成立の経緯にまで遡って理解できる。		◎	◎		
欧州経済史	自由選択科目1	3~4	市場経済が史上初めて一般化した西欧の経済史を太古にまで遡って検討し、市場経済の本質を探ることができる。	○	◎	◎		
現代ヨーロッパ経済史	自由選択科目1	3~4	分裂から統合へと向かう20世紀欧州経済の歴史を、通貨問題を切り口として検討することができる。	○	◎	◎		
経営史1	自由選択科目1	3~4	近代工業の成立から近年に至るまでの企業経営の歴史的变化について理解し、説明できるようになる。	◎	◎	○		
経営史2	自由選択科目1	3~4	企業経営の歴史的变化について、日本の事例をを理解し、説明できるようになる。	◎	◎	○		
アジア経済史1	自由選択科目1	3~4	1960年代から現在に至るNIES, アセアン諸国, 中国, インドの経済発展の実相を探り、その中に垣間見える過去との連続性を考察することができる。	○	◎	◎		
アジア経済史2	自由選択科目1	3~4	アジアを過去にさかのぼって考察し、現代アジア経済における新しさと古さの共存を理解することができる。	○	◎	◎		
アメリカ経済史	自由選択科目1	3~4	アメリカ経済を長期的・歴史的視点から理解し、資本主義の歴史的段階を明らかにすることができる。	○	◎	◎		
現代アメリカ経済史	自由選択科目1	3~4	第二次世界大戦後のアメリカ資本主義の歴史的段階を明らかにし、資本主義のアメリカ的段階とは何かについても検討を加えることができる。	○	◎	◎		
会計学1	自由選択科目1	2~4	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎		
会計学2	自由選択科目1	2~4	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
中級簿記1	自由選択科目1	2～4	「簿記」に引き続き、基礎的な取引の記帳について、商業簿記2級以上の知識を得ることができる。			◎	○	
中級簿記2	自由選択科目1	2～4	中級簿記1に引き続き、商業簿記の2級以上の論点について理解することができる。			◎	○	
ファイナンス基礎	自由選択科目1	1～4	ファイナンスなど経営に関連した科目を履修する準備として、企業経営の全体像を大づかみに理解できる。			◎	◎	
経営分析論1	自由選択科目1	2～4	経営分析の考え方と分析指標について理解できる。		◎	○	○	
経営分析論2	自由選択科目1	2～4	企業価値の評価に用いられる分析手法を理解できる。		◎	○	◎	
財務会計論1	自由選択科目1	2～4	財務会計理論に関する歴史的変遷を理解することにより将来への展望を得ることができ、また現在の会計の制度的特質を理解することができる。		◎			
財務会計論2	自由選択科目1	2～4	現在の財務会計の具体的論点を理解し、現在の会計がかかえる問題点を知ることができる。		◎			
管理会計論1	自由選択科目1	2～4	企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて学ぶことができる。		◎			
管理会計論2	自由選択科目1	2～4	管理会計論1に引き続き、企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて学ぶ。		◎			
原価計算論1	自由選択科目1	2～4	原価計算という行為の特質を、「原価計算基準」の歴史に即して理解することを目標とします。		◎			
原価計算論2	自由選択科目1	2～4	戦略的思考の発展と原価概念の広がりについて理解することを目標とします。		◎			
会計監査論1	自由選択科目1	2～4	会計監査の目的、意義、内容等についての基本的知識を修得し、監査が果たす役割の重要性について理解し、説明することができる。		◎			
会計監査論2	自由選択科目1	2～4	財務諸表監査の制度や歴史等についての基本的知識を修得し、資本主義経済の中で監査が果たす役割の重要性について理解し、説明することができる。	○	◎			

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
上級簿記1	自由選択科目1	3~4	簿記の基礎を学習した学生を対象に、より上級の試験に対応できるレベルへのステップアップができる。		◎			
上級簿記2	自由選択科目1	3~4	簿記の基礎を学習した学生を対象に、より上級の試験に対応できるレベルへのステップアップができる。		◎			
国際会計論1	自由選択科目1	2~4	会計国際化の背景と必要性、その理論的問題点について理解を深めることができる。	◎	◎			
国際会計論2	自由選択科目1	2~4	会計基準の統一化にかかわる個別具体的な会計問題について理解を深めることができる。	◎	◎	○		
会計情報論1	自由選択科目1	2~4	利用者としての立場から会計情報を検討し、会計情報に基づく企業価値評価に必要な基礎的手法の習得する。		◎		◎	
会計情報論2	自由選択科目1	2~4	公表された会計情報を利用して、実際の企業の価値評価を行うことができる。		◎		◎	
税務会計論	自由選択科目1	2~4	法人税法の理論及び計算構造を理解することができる。		◎			
会計政策論1	自由選択科目1	2~4	巨大株式会社の会計政策について、ファイナンス構造との関連から、実証的、批判的に理解し、説明することができる。		◎			
会計政策論2	自由選択科目1	2~4	巨大株式会社の会計政策の実態を、会計制度とファイナンスの関係から個別企業に即して実証分析することができる。		◎	○		
環境会計論	自由選択科目1	3~4	環境会計の成立、現状、今後の展開および企業が実際に行っている環境情報開示の現状について理解し、説明することができる。	○	◎			
非営利会計論	自由選択科目1	3~4	非営利法人の数と規模の拡大を前提に、企業会計と非営利会計との根本的相違を理解し、説明することができる。	○	◎			
タックス・プランニング	自由選択科目1	2~4	納税者の視点から、タックス・プランニングに係る基本原則を理解する。税法を正しく解釈し、その適用に必要な基礎的な知識を習得する。		◎			
会計史1	自由選択科目1	2~4	現代企業会計の本質を理解し、かつその将来的道筋を洞察する手段として、そこに至る会計の発展過程を理解し、説明することができる。	○	◎			

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
会計史2	自由選択科目1	2～4	現代企業会計の本質を理解し、かつその将来的道筋を洞察する手段として、そこに至る会計の発展過程を理解し、説明することができる。	○	◎			
コーポレート・ファイナンス1	自由選択科目1	2～4	コーポレート・ファイナンス2とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン／ウーマンといえるレベルにまで到達することができる。		◎			
コーポレート・ファイナンス2	自由選択科目1	2～4	コーポレート・ファイナンス1とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン／ウーマンといえるレベルにまで到達することができる。		◎			
金融工学	自由選択科目1	3～4	金融工学の基本的知識・方法論を修得することによって、金融市場の動向や金融商品の理解を深めることができる。			◎	◎	
ポートフォリオ論	自由選択科目1	3～4	モダンポートフォリオ理論の考え方を修得すると同時に、実際の資金運用や、ファンドマネジャーの投資行動を理解することができる。			◎	◎	
保険論	自由選択科目1	3～4	保険理論を理解し、次いで保険会社の経営問題を、生命保険業・損害保険業それぞれの収益構造から理解することができる。			◎	◎	
金融史	自由選択科目1	3～4	日本の金融制度・金融システム・金融政策を歴史的・長期的な視点から理解し、説明することができる。	○	◎			
国際経営論1	自由選択科目1	2～4	国際経営学の基礎知識の修得により、学問体系の大まかなイメージを掴み、その存在意義を理解し、説明することができる。	○	◎			
国際経営論2	自由選択科目1	2～4	多国籍企業による国際経営戦略について、時系列的にその歴史・理論・ケースを理解し、説明することができる。		◎			
マーケティング論1	自由選択科目1	2～4	企業活動におけるマーケティングの役割を理解するとともに、マーケティングの基本的な考え方について理解し、説明することができる。		◎			
マーケティング論2	自由選択科目1	2～4	マーケティングの分析用具を使い、現代のマーケティング課題について考える力を習得する。		◎	○		
コーポレート・ガバナンス論1	自由選択科目1	2～4	現代の企業形態を代表する株式会社制度に焦点を合わせ、その法制上の構造と企業経営の実態を理解し、説明することができる。	○	◎			
コーポレート・ガバナンス論2	自由選択科目1	2～4	グローバル化した市場の中での日本の株式会社の競争的現実を理解し、説明することができる。	○	◎			

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
企業法1	自由選択科目1	2~4	私達の経済生活に密接な関係を有する企業、特に、会社企業を対象に、法律学(企業法)の観点から理解し、説明することができる。	○	◎			
企業法2	自由選択科目1	2~4	企業にとって大切な財産のうち、「知的財産」について、法律の観点から理解し、説明することができる。	○	◎			
外書講読・独A	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いながら経済関連書を読めるようになる。	◎	◎			
外書講読・独B	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いなが、経済関連書を読めるようになる。	◎	◎			
外書講読・仏A	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いなが、経済関連書を読めるようになる。	◎	◎			
外書講読・仏B	自由選択科目1	3~4	簡単な経済用語に慣れ、辞書を使いなが、経済関連書を読めるようになる。	◎	◎			
ゼミナールA	自由選択科目1	2~3	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指す。	○	◎	◎		○
ゼミナールB	自由選択科目1	4	ゼミナールAで育成されたアカデミック・スキルのより一層の向上を目指すとともに、卒業論文等の個人研究の充実を図る。	○	◎	◎		○
ゼミナール(単年度)	自由選択科目1	2~4	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指す。	○	◎	◎		○
統計調査論1	自由選択科目1	2~4	社会調査の意義・類型・方法などにかかわる基本的な事柄を習得する。				◎	
統計調査論2	自由選択科目1	2~4	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を実践的な形で習得する。				◎	
調査実習	自由選択科目1	3~4	社会調査に関する基礎を学習するとともに、実際に調査の企画から実施、集計と分析まで行うことで社会調査を体系的に学習する。				◎	
経済地理学1	自由選択科目1	2~4	東アジアを中心に経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	◎	◎			

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経済地理学2	自由選択科目1	2～4	東アジアを中心に経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	◎	◎			
課題解決演習A	自由選択科目1	1～4	協力企業による講義やグループディスカッションを通じて、産業の多様性や関係性について学び、社会・経済の全体構造について理解を深めることができる。	○	◎	◎		◎
課題解決演習B	自由選択科目1	2～4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎
課題解決演習C	自由選択科目1	2～4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎
企画講座1	自由選択科目1	2～4	「将来親の会社を継ぐかもしれない」または「継ぐ予定はないが、経営に関心がある」学生が、会社経営や事業承継の意義・課題について理解し、説明することができる。	○	◎	◎		◎
企画講座2	自由選択科目1	2～4	国の財政監督機関である会計検査院が行っている会計検査の役割、その実施方法、報告書の内容などを理解し、国民が納めた税金が適正かつ効率的・効果的に使われているかをチェックすることの重要性について考えることができる。	○	◎	◎		◎
企画講座3	自由選択科目1	2～4	公共政策の財源を調達しつつ、所得・富の再分配を行い、経済の安定化等に資する租税制度及びその運営を支える税理士制度について学び、経済社会における租税の重要性を理解する。	○	○	◎		◎
企画講座4	自由選択科目1	3～4	会計が、企業を取り巻く利害関係者との間で行われ、人と人との関係が背後に横たわっているという意味ですぐれて社会的な行為であることを理解する。		◎	◎		◎
インターンシップ	自由選択科目1	2～4 (2,3年次推奨)	就業体験を通じて企業活動の現場を体感し、大学における学習の意義を再確認すると共に自分自身のキャリアデザインを考え、実践することができる。	○	◎	◎		◎
職業指導概論	自由選択科目1	3～4	個人の職業行動への介入活動である職業指導の歴史的発展と今日のキャリア形成とキャリア発達の理論とその促進の技法について学ぶことができる。			◎		◎
民法1	自由選択科目1	1～4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それに対処するための基本的な法的発想力を身につけることができる。		○	◎		
民法2	自由選択科目1	1～4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それに対処するための基本的な法的発想力を身につけることができる。		○	◎		
日本史	自由選択科目1	2～4	日本史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
世界史	自由選択科目1	2～4	世界史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎		
政治学	自由選択科目2	2～4	今日の日本政治の構造とダイナミズムを、理論的な枠組みにそって、また比較研究をつうじて理解し、説明することができる。	◎	◎			
地誌学1	自由選択科目2	1～4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地誌学2	自由選択科目2	1～4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地理学概説1	自由選択科目2	1～4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地理学概説2	自由選択科目2	1～4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎		
自然地理学1	自由選択科目2	2～4	自然地理学の基礎を学び、地球全体の環境を意識できるようになる。	○	◎	◎		
自然地理学2	自由選択科目2	2～4	自然地理学の基礎を学び、地球全体の環境を意識できるようになる。	○	◎	◎		
心理学1	自由選択科目2	1～4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○		
心理学2	自由選択科目2	1～4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○		
宗教思想1	自由選択科目2	1～4	現在のわれわれの知の枠組みを決定した近代の西欧思想に触れ、その中で宗教の問題がどのような位置にあるかを考えること。	○	○	○		
宗教思想2	自由選択科目2	1～4	受講者が現代の宗教思想に自分で触れ、考えるようになること。	○	○	○		
哲学概論1	自由選択科目2	1～4	西洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○		

経済学部経済政策学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
哲学概論2	自由選択科目2	1~4	東洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○		

カリキュラム・マップ

経済学部教育目的

幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出す。

学修成果

- 「学士(経済学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。
- ① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。
 - ② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。
 - ③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。
 - ④ 経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる。
 - ⑤ 自らのキャリアを設計することができる。

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
簿記1	必修科目	1	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎	
簿記2	必修科目	1	基本的な簿記の仕組み・役割を理解し、活用できる。				◎	
会計学1	必修科目	2	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎		
会計学2	必修科目	2	企業会計の計算構造を理解し、企業の決算書を読むことができる。	○	○	◎		
経済学1	必修科目	1	マルクス経済学の基礎概念と理論及び歴史的背景についてバランスよく習得し、現代の経済問題に関する議論に参加しうる経済学的視点を養う。	◎	◎	◎	△	
経済学2	必修科目	1	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を中心に、経済学の基本的な考え方を学ぶ。それを通じて様々な経済問題に対して、自分なりの意見を持てるようになる。	◎	◎	◎	△	
基礎ゼミナール1	共通選択科目1	1	大学における学習に円滑に適応できるように、アカデミック・スキルの基本と方法を身につけることができる。			◎	◎	○
基礎ゼミナール2	共通選択科目1	1	アカデミック・スキルの基本を踏まえてレポートを作成し、2年次以降の専門ゼミナールでの学習に向けた準備をすることができる。			◎	◎	○

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
情報処理入門1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	パソコンを活用して、文書作成とデータ処理ができる。				◎	
情報処理入門2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済データ、財務データ、会計データを使った応用分析ができる。				◎	
経済数学入門	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	経済学・経営学で最低限必要とされる数学を活用できるようになる。				◎	
統計学1	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	「記述統計」の内容を理解し、現実分析ができる。	○		△	◎	
統計学2	共通選択科目1	1~4 (1年次推奨)	推測統計学を活用できる。	○		△	◎	
外書講読・英A	共通選択科目1	2~4 (2,3年次推奨)	経済に関する英語文献を読むことができる。	◎				
外書講読・英B	共通選択科目1	2~4 (2,3年次推奨)	経済に関する英語文献を読むことができる。	◎				
経営学1	共通選択科目1	1~4	社会と企業を中心に、企業の経営を理解し、実践するための知識を習得し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
経営学2	共通選択科目1	1~4	企業と個人を中心に理論を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
社会経済学1	共通選択科目1	2~4 (2年次推奨)	資本主義という経済体制の生成、構造および発展を理解し、説明することができる。	○	◎			
社会経済学2	共通選択科目1	2~4 (2年次推奨)	資本主義という経済体制の生成、構造および発展を理解し、説明することができる。	○	◎			
初級ミクロ経済学1	共通選択科目1	2~4 (2年次推奨)	標準的なミクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	
初級マクロ経済学1	共通選択科目1	2~4 (2年次推奨)	標準的なマクロ経済学の基本的概念・考え方・分析手法を修得することによって、より上級の理論や、より専門的な分野の学習のための土台をつくる。	○	◎	◎	○	

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
中級簿記1	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	「簿記」に引き続き、基礎的な取引の記帳について、商業簿記2級以上の知識を習得し、活用できるようになる。				◎	
中級簿記2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	中級簿記1に引き続き、商業簿記の2級以上の論点について理解し、活用できるようになる。				◎	
ファイナンス基礎	共通選択科目2	1~4 (1年次推奨)	ファイナンスなど経営に関連した科目を履修する準備として企業経営の全体像を大づかみに理解し、自ら考えることができるようになる。	○	○	◎		
経営分析論1	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	経営分析の考え方と分析指標について理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
経営分析論2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	企業価値の評価に用いられる分析手法を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
金融論1	共通選択科目2	1~4	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融論2	共通選択科目2	1~4	金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
景気変動論1	共通選択科目2	3~4 (3年次推奨)	前期では、景気変動を学ぶ基礎としてマクロ経済学を復習し、その上で、なぜ経済は変動するのかについて、基本的な仕組みを理解し、説明できるようになる。	○	◎			
景気変動論2	共通選択科目2	3~4 (3年次推奨)	景気変動の理論を「循環」と「成長」を中心に理解し、最近の成果である貨幣・金融の影響を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
初級ミクロ経済学2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	入門的なミクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初～中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
初級マクロ経済学2	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	入門的なマクロ経済学に関する知識を前提として、ミクロ経済学の初～中級レベルの内容を理解することができる。	○	◎	◎		
財務情報処理A	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	会計、金融、経営に関するデータを入手、分析し、分析結果のプレゼンテーションができる				◎	
財務情報処理B	共通選択科目2	2~4 (2年次推奨)	会計、金融、経営に関するデータを入手、分析、分析結果のプレゼンテーションができる。				◎	

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経済英語1	共通選択科目2	2~4	世界経済が抱える諸課題について、経済学的に理解する力をつける。	◎				
経済英語2	共通選択科目2	2~4	世界経済が抱える諸課題について、①経済学で理解する、②テキストの英文を理解する、③映像を見て言葉を聴き取る、の3つの目標達成を目指す。	◎				
経済英語3	共通選択科目2	2~4	英語を使って会社員としての基本業務をひとつとおりこなせるようになるための、初歩的訓練を行う。	◎				
経済英語4	共通選択科目2	2~4	聴く、読む、書く、話すという英語力のうち、とくに話す力と書く力を向上させる。	◎				
経済英語5	共通選択科目2	2~4	政治経済、経営の知的枠組みを理解し、コンテンポラリーな話題について英語で理論的に議論できる力を養う。	◎				
経済英語6	共通選択科目2	2~4	政治経済、経営の知的枠組みを理解し、コンテンポラリーな話題について英語で理論的に議論できる力を養う。	◎				
Short-term Study Abroad Program in Economics(USA)	共通選択科目2	2~4	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
Short-term Study Abroad Program in Economics(UK)	共通選択科目2	2~4	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
Short-term Study Abroad Program in Economics(CA)	共通選択科目2	2~4	海外の経済と文化を理解するとともに、国際的な場で活躍するために必要なスキルを身につける。	◎	◎			○
Short-term Study Abroad Program in Economics(AU)	共通選択科目2	1~3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
Global Communication Internship (PHL)	共通選択科目2	1~3	各国経済や経済学を英語で理解できるようになるとともに、海外で英語で授業を受けることによって、英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。					○
財務会計論1	学科選択科目	2~4	財務会計理論に関する歴史の変遷を理解し、現在の会計の制度的特質を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
財務会計論2	学科選択科目	2~4	現在の財務会計の具体的論点と問題点を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
管理会計論1	学科選択科目	2~4	企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
管理会計論2	学科選択科目	2~4	管理会計論1に引き続き、企業で行われる経営管理活動において、会計情報がどのように用いられているのかについて学び、活用できるようになる。	○	○	◎		
原価計算論1	学科選択科目	2~4	原価計算という行為の特質を、「原価計算基準」の歴史に即して理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
原価計算論2	学科選択科目	2~4	戦略的思考の発展と原価概念の広がりについて理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
会計監査論1	学科選択科目	2~4	会計監査の目的、意義、内容等についての基本的知識を修得し、監査が果たす役割の重要性について理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
会計監査論2	学科選択科目	2~4	財務諸表監査の制度や歴史等についての基本的知識を修得し、資本主義経済の中で監査が果たす役割の重要性を理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
租税法1	学科選択科目	2~4	わが国の財政状況および税務行政の沿革を概観したうえで、租税に関する法的なしくみを理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
租税法2	学科選択科目	2~4	所得税法、法人税法を中心にそれぞれの租税に関する法的なしくみを理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
上級簿記1	学科選択科目	3~4	上級の試験に対応できるようになる。				◎	
上級簿記2	学科選択科目	3~4	上級の試験に対応できるようになる。				◎	
国際会計論1	学科選択科目	2~4	会計国際化の背景と必要性、その理論的問題点について理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
国際会計論2	学科選択科目	2~4	会計基準の統一化にかかわる個別具体的な会計問題について理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
会計情報論1	学科選択科目	2~4	利用者としての立場から会計情報を検討し、会計情報に基づく企業価値評価に必要な基礎的手法を活用できるようになる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
会計情報論2	学科選択科目	2~4	公表された会計情報を利用して、実際の企業の価値評価をできるようになる。	○	○	◎		
税務会計論	学科選択科目	2~4	法人税法の理論及び計算構造を理解し、活用できるようになる。	○	○	◎		
会計政策論1	学科選択科目	2~4	巨大株式会社の会計政策について、ファイナンス構造との関連から、実証的、批判的に理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
会計政策論2	学科選択科目	2~4	巨大株式会社の会計政策の実態を、会計制度とファイナンスの関係から個別企業に即して実証分析ができるようになる。	○	○	◎		
環境会計論	学科選択科目	3~4	環境会計の成立、現状、今後の展開および企業が実際に行っている環境情報開示の現状について理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
非営利会計論	学科選択科目	3~4	非営利法人の数と規模の拡大を前提に、企業会計と非営利会計との根本的相違を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
タックス・プランニング	学科選択科目	2~4	タックス・プランニングの基本原則を理解し、実際上の問題点を分析できるようになる。			◎	○	
会計史1	学科選択科目	2~4	現代企業会計の本質を理解し、会計の発展過程を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
会計史2	学科選択科目	2~4	現代企業会計の本質を理解し、会計の発展過程を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
コーポレート・ファイナンス1	学科選択科目	2~4	コーポレート・ファイナンス2とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン/ウーマンといえるレベルの知識を身につけ、分析に活用できるようになる。	○	○	◎		
コーポレート・ファイナンス2	学科選択科目	2~4	コーポレート・ファイナンス1とあわせて、企業財務に明るいビジネスマン/ウーマンといえるレベルの知識を身につけ分析に活用できるようになる。	○	○	◎		
証券経済論	学科選択科目	2~4	金融・証券の果たす基本的機能(金融仲介、情報生産、リスクの管理・配分、流動性の付与)について理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
証券市場論	学科選択科目	2~4	証券市場をめぐる近年の動きとその意味について、株式市場、証券会社、証券化、投資信託、M&A等の問題を通じて理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
外国為替論	学科選択科目	2～4	外国為替, 国際収支, 外国為替制度といった国際金融の理論・制度を学ぶことによって, 国際金融の様々な動きを理解し, 説明できるようになる。	○	○	◎		
国際金融論	学科選択科目	2～4	国際金融の歴史・現状を学ぶことによって, これまでバブルを繰り返してきた世界経済と国際通貨システムの将来について理解し, 自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
計量経済学1	学科選択科目	2～4	多元回帰法を中心とする計量経済分析法の基礎を習得するとともに, 経済データを用いて基礎的な計量分析を行うことができる。	○		△	◎	
計量経済学2	学科選択科目	2～4	相関・回帰分析, 時系列分析を中心とする計量経済分析法を学習し, 基本的な計量分析を行うことができる。	○		△	◎	
金融工学	学科選択科目	3～4	金融工学の基本的知識・方法論を修得することによって, 金融市場の動向や金融商品を理解し, 自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
ポートフォリオ論	学科選択科目	3～4	モダンポートフォリオ理論の考え方を修得すると同時に, 実際の資金運用や, ファンドマネジャーの投資行動を理解し, 自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融機関論	学科選択科目	3～4	日本の金融機関や金融制度に関する基礎知識の修得と, 預金取扱金融機関を巡る問題を理解し, 自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融政策論	学科選択科目	3～4	金融政策を運営している日本銀行の目的・機能, 金融政策の目標・手段・有効性やそれらを巡る議論を理解し, 自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
年金経済論	学科選択科目	3～4	公的年金に関する基本的な知識を身につけ, 現在の日本の年金制度の特徴や問題点を把握し, これからの年金改革の方向性について理解し, 自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
保険論	学科選択科目	3～4	保険理論と保険会社の経営問題を理解し, 自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
金融史	学科選択科目	3～4	日本の金融制度・金融システム・金融政策を歴史的・長期的な視点から理解し, 説明できるようになる。	○	◎			
経営史1	学科選択科目	2～4	近代工業の成立から近年に至るまでの企業経営の歴史的変化について理解し, 説明できるようになる。	○	◎			
経営史2	学科選択科目	2～4	企業経営の歴史的変化について, 日本の事例をを理解し, 説明できるようになる。	○	◎			

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
現代企業論1	学科選択科目	2~4	「現代企業とは何か」を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
現代企業論2	学科選択科目	2~4	現代企業の発展要因として、企業自身の内部要因に加え、国家戦略との連携という外部要因にも求め得る点を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
国際経営論1	学科選択科目	2~4	国際経営学の基礎知識の修得により、学問体系の大まかなイメージを掴み、その存在意義について自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
国際経営論2	学科選択科目	2~4	多国籍企業による国際経営戦略について、時系列的にその歴史・理論・ケースを理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
マーケティング論1	学科選択科目	2~4	企業活動におけるマーケティングの役割を理解するとともに、マーケティングの基本的な考え方を理解し、分析できるようになる。	○	○	◎		
マーケティング論2	学科選択科目	2~4	マーケティングの分析用具と現代のマーケティング課題を理解し分析できるようになる。	○	○	◎		
コーポレート・ガバナンス論1	学科選択科目	2~4	本講義では、現代の企業形態を代表する株式会社制度に焦点を合わせ、その法制上の構造と企業経営の実態を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
コーポレート・ガバナンス論2	学科選択科目	2~4	本講義では、グローバル化した市場の中での日本の株式会社の競争的現実を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
企業法1	学科選択科目	2~4	会社企業の法律学(企業法)を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
企業法2	学科選択科目	2~4	「知的財産」の法律について理解し、説明できるようになる。	○	◎			
経済史1	自由選択科目1	1~4 (1,2年次推奨)	太古から現代まで人類の経済生活がいかに変化したかを知ること、複雑な現代世界経済を立体的に理解する手掛かりを得る。	◎	◎	○		
経済史2	自由選択科目1	1~4 (1,2年次推奨)	経済学の各分野を学ぶ前提として、経済についての歴史的な基礎知識を身につけ、かつ経済を歴史的に捉える多様なアプローチを学び、柔軟な知性を磨く。	◎	◎	○		
経済学史1	自由選択科目1	1~4	イギリス通商政策についてのエコノミストたちの議論の歴史を通じて、経済学がいかに発展してきたのかを理解し、説明できるようになる。	○	◎			

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
経済学史2	自由選択科目1	1~4	イギリス通商政策についてのエコノミストたちの議論の歴史を通じて、経済学がいかに発展してきたのかを理解し、説明できるようになる。	○	◎			
経済統計学1	自由選択科目1	3~4	現代日本経済の実態を各種経済統計の体系から分析することができる。	○		△	◎	
経済統計学2	自由選択科目1	3~4	統計調査法と統計解析法の両側面から統計法を理解し、活用することができる。	○		△	◎	
日本経済論1	自由選択科目1	1~4	日本経済の基本的構造や特性を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
日本経済論2	自由選択科目1	1~4	戦後から今日に至る日本経済の実体面と金融面の動きを理解し、今後の日本経済の進路を考察し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
国際経済論	自由選択科目1	1~4	貿易・直接投資・間接投資に関する基礎知識を身につけ、国際分業の特徴について自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
世界経済論	自由選択科目1	1~4	1980年代後半以降加速したグローバル化について学び、それがIMF等の国際制度・各国経済・国際分業に与えた影響を理解し、自分の意見を説明できるようになる。	○	○	◎		
日本経済史1	自由選択科目1	2~4	経済現象を歴史的に観察して説明することができる	○	◎			
日本経済史2	自由選択科目1	2~4	経済現象を歴史的に観察して、説明することができる。	○	◎			
経済政策論1	自由選択科目1	2~4	環境・エネルギー問題が人類共通の緊急課題であることを理解し、分析することができる。	○	○	◎		
経済政策論2	自由選択科目1	2~4	日本の経済政策について、その現状と課題を、日米欧の国際的な比較をしながら理解し、分析することができる。	○	○	◎		
財政学1	自由選択科目1	2~4	財政の役割、構造及びそれを支える理論、現代財政の問題点等について理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
財政学2	自由選択科目1	2~4	日本における財政制度の特徴、最近の収支状況、直面する課題及び問題点について理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
国際貿易論	自由選択科目1	2~4	国際貿易についての基礎理論とその背景を押さえつつ、国際貿易・システムの現状と課題、解決の道筋を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際経済政策論	自由選択科目1	2~4	国際経済政策の現代的課題を国際政治経済学(IPE)アプローチから概観する。諸政策の動向、対立する理論的見解、今後の展望を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
応用社会経済学1	自由選択科目1	3~4	現代経済の仕組みをラディカルに(根本から、すなわち労働というその発生点から)理解し、説明することができる。	○	◎			
応用社会経済学2	自由選択科目1	3~4	現代経済の仕組みをトータルに(システム全体との関連で、具体的には所有というその正当化形態でひとくくりにして)理解し、説明することができる。	○	◎			
中級ミクロ経済学	自由選択科目1	3~4	ミクロ経済学の初~中級レベルの内容を理解し、説明できるようになる。	○	◎			
中級マクロ経済学	自由選択科目1	3~4	オーソドックスなマクロ経済学の基礎を理解し、ケインズ経済学と対比しつつ、その成果と課題を説明することができる。	○	◎			
公共経済学1	自由選択科目1	3~4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを理解し、説明することができる。	○	◎			
公共経済学2	自由選択科目1	3~4	公共的な課題の解決のために、政府のあり方が問われている。公共部門は、何を、どのように行うべきか、それにより何が期待できるかを理解し、説明することができる。	○	◎			
現代資本主義論	自由選択科目1	3~4	資本主義は何よりも貨幣経済であり貨幣論抜きには何事も語れない。貨幣理論から資本主義の現在の危機の構造を理解し、説明することができる。	○	◎			
国際マクロ経済学	自由選択科目1	3~4	マクロ経済学や国際収支表の基礎を確認しながらも対外経済関係を経済学的に考えるための理論的基礎を学習すると同時に政策的示唆を理解し、説明することができる。	○	◎			
数理経済学	自由選択科目1	3~4	経済学の思考方法と数学的論理の血縁関係を前提に、経済学の論理の核心部分を理解し、説明することができる。	○	◎			
社会思想史	自由選択科目1	3~4	古典の文言を通して思想を理解し、その基礎にある人間観を理解し、説明することができる。	○	◎			
現代社会思想	自由選択科目1	3~4	合理主義と理性がもたらした「現代」の諸問題はどうか解釈され、どんな解決方法を生んだのか。現代人の常識としてその基本を理解し、説明することができる。	○	◎			

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
近代経済学説史	自由選択科目1	3~4	現代のミクロ経済学・マクロ経済学の重要概念を、その成立の経緯にまで遡って理解し説明することができる。	○	◎			
EU経済論	自由選択科目1	3~4	欧州連合(European Union)の基礎である関税同盟の成立からその発展、共通農業政策や共通通商政策とGATT/WTO体制との関係、通貨統合などを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
地域経済統合論	自由選択科目1	3~4	国際貿易体制において近年極めて顕著になってきた地域経済統合の実態を分析し、WTO体制との関係を探る。EU, NAFTA, 各国のFTA等を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
中国経済論	自由選択科目1	3~4	中国経済を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
中国経済政策論	自由選択科目1	3~4	中国経済を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際政治経済学	自由選択科目1	3~4	国際経済における政治・経済・規範の関係を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際機関論	自由選択科目1	3~4	国際機関の役割・機能等と近年の問題点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際援助論	自由選択科目1	3~4	国際援助の視角と実施の構造、国際援助が引き起こす様々な問題とその解決のための展望を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
欧州経済史	自由選択科目1	3~4	市場経済の本質を、それが史上初めて一般化した西欧の経済史を太古にまで遡ってを理解し、説明することができる。	○	◎			
現代ヨーロッパ経済史	自由選択科目1	3~4	分裂から統合へと向かう20世紀欧州経済の歴史を理解し、説明することができる。	○	◎			
アジア経済史1	自由選択科目1	3~4	1960年代から現在に至るNIES, アセアン諸国, 中国, インドの経済発展の実相を探り、その中に垣間見える過去との連続性を理解し、説明することができる。	○	◎			
アジア経済史2	自由選択科目1	3~4	現代アジア経済における新しさと古さの共存を理解し、説明することができる。	○	◎			
比較経済体制論1	自由選択科目1	3~4	新たな制度主義アプローチで21世紀の体制を生き抜く指針を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
比較経済体制論2	自由選択科目1	3~4	ユーラシアの多様な社会体制とその諸国民に対し、今後日本(人)が如何につき合っていくべきかを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
アメリカ経済史	自由選択科目1	3~4	アメリカ経済を長期的・歴史的視点から理解し、資本主義の歴史的段階を理解して説明することができる。	○	◎			
現代アメリカ経済史	自由選択科目1	3~4	第二次世界大戦後のアメリカ資本主義の歴史的段階を理解し、説明することができる。	○	◎			
産業経済論1	自由選択科目1	3~4	日本の国際競争力に陰りが見えるとはいえ、日本の産業システムは競争力を発揮している。その理由を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
産業経済論2	自由選択科目1	3~4	日本の国際競争力に陰りが見えるとはいえ、日本の産業システムは競争力を発揮している。その理由を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
労働経済論1	自由選択科目1	3~4	日本の雇用の制度と実態を、国際比較に留意しながら明らかにした上で、そこにはらまれている問題点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
労働経済論2	自由選択科目1	3~4	日本の雇用の制度と実態を、国際比較に留意しながら明らかにした上で、そこにはらまれている問題点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
環境経済学1	自由選択科目1	3~4	環境経済学の理論と現実と様々な環境問題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
環境経済学2	自由選択科目1	3~4	環境と経済は密接不可分で、経済のあり方が環境の状況を決定するが、そこに技術が大きく関わっていることを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
開発経済学	自由選択科目1	3~4	開発経済学の基本的な知識を身につけるとともに、貧困などの社会問題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
アジア経済論	自由選択科目1	3~4	アジア経済躍進のメカニズムとその問題点を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
アメリカ経済論	自由選択科目1	3~4	アメリカ経済の発展プロセスをふまえた上で、世界に大きな影響を与え続けている現代アメリカ経済の構造とその変化の内実を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
アメリカ経済政策論	自由選択科目1	3~4	アメリカ経済政策は日本を含め各国経済政策に強い影響を及ぼしている。内外に展開するアメリカ経済政策のあり方を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
租税論1	自由選択科目1	2~4	租税理論の視点から現実の租税制度・租税政策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
租税論2	自由選択科目1	2~4	租税制度・租税政策を国際比較と歴史の視点から理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
地方財政論1	自由選択科目1	2~4	地方財政を制度を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
地方財政論2	自由選択科目1	2~4	現代地方財政改革を政治経済として理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
社会政策論1	自由選択科目1	3~4	社会政策(社会保障)の諸制度・理論を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
社会政策論2	自由選択科目1	3~4	現物給付中心の社会保障制度である健康保険と介護保険を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
農業経済論	自由選択科目1	3~4	農業生産、食料消費の工業製品との違いを理解し、農業・食糧問題を考える上で必要な、経済理論・基礎知識を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
農業政策論	自由選択科目1	3~4	現在の日本農業が、どのような政策によってもたらされ、どのような問題点を持っているか、必要な政策は何かを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
都市政策論1	自由選択科目1	3~4	都市経済学の観点から現代の経済社会において都市が担う役割について学ぶとともに、各種の事例を通じて公共政策分析の基礎を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
都市政策論2	自由選択科目1	3~4	住宅及び土地の市場を中心に、現代の都市を分析する視覚を身につける。また、中心市街地活性化や廃棄物問題などの現代の都市問題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
中小企業論1	自由選択科目1	3~4	圧倒的な多数を占める中小企業がどのように認識され、論じられて来たのかを知り、主体的に経済事象に働きかけられるようになる。	○	○	◎		
中小企業論2	自由選択科目1	3~4	中小企業政策に焦点を当て、産業政策の中に中小企業がどのように位置づけられ、中小企業政策として立案・実行されて来たのかを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
消費者政策論	自由選択科目1	3~4	消費者政策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
生活経済論	自由選択科目1	3~4	生活経済学的視点から消費経済政策を捉え、統計数値を用いて現代の消費者が抱えている生活問題を理解し、分析することができる。	○	○	◎		
比較公共政策論1	自由選択科目1	3~4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
比較公共政策論2	自由選択科目1	3~4	現在の金融・環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し、制度化されつつある国際的な方策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
環境政策論	自由選択科目1	3~4	直接規制、枠組的規制、経済的手法、自主協定、環境権に関する環境政策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
文化経済学	自由選択科目1	3~4	芸術、文化活動の背景にある経済的原理の実態を理解し、芸術、文化、経済が、社会において共に発展し得る方法を理解し、説明することができる。	○	○	◎		
社会開発論	自由選択科目1	3~4	社会開発の概念とその変遷、具体的な取り組み等を学びつつ、従来の経済開発との差異を理解し、社会開発の基本的な考え方と主要な課題を理解する。	◎	○	◎		
公共政策特講A	自由選択科目1	3~4	社会保障政策関連の問題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
産業政策特講A	自由選択科目1	3~4	地球の温暖化が深刻化し、石油など化石燃料の枯渇も間近という状況を理解した上で、代替エネルギー問題や持続可能な社会のあり方を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
国際政策特講A	自由選択科目1	3~4	国際政策を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
医療経済論	自由選択科目1	3~4	医療経済学の基本的な考え方を理解し、現在の日本の医療保険制度が抱える課題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
福祉経済論	自由選択科目1	3~4	この授業では、経済と福祉の関わりを理解すること、社会保険の構造と仕組みを理解すること、社会福祉の種類と福祉財政を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
流通経済論	自由選択科目1	2~4	経済社会における生産と消費のへだたりを克服する流通の役割と、それを担う小売業、卸売業の機能を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
流通政策論	自由選択科目1	2~4	国の流通分野での規制・助成である流通政策の内容と意義、流通産業の今日的課題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
公益産業論	自由選択科目1	3~4	産業部門一般とは異なる性質をもつ公益産業(公益事業)の特徴と、政府規制の意義、料金決定原理、規制緩和の動向を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
規制の経済学	自由選択科目1	3~4	交通事業での政府規制を理論的に理解し、規制改革のもとでの需給調整と安全規制との関連、交通政策・経営の課題を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
NGO論	自由選択科目1	3~4	国境を越える市民社会の機能を理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
NPO論	自由選択科目1	3~4	NPOを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
ゼミナールA	自由選択科目1	2~3	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指す。	○	◎	◎		○
ゼミナールB	自由選択科目1	4	ゼミナールAで育成されたアカデミック・スキルのより一層の向上を目指すとともに、卒業論文等の個人研究の充実を図る。	○	◎	◎		○
ゼミナール(単年度)	自由選択科目1	2~4	輪読やディベート、グループワークなどに従事することによって、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどのアカデミックスキルの向上を目指す。	○	◎	◎		○
統計調査論1	自由選択科目1	2~4	社会調査の意義・類型・方法などにかかわる基本的な事柄を習得する。			◎	◎	
統計調査論2	自由選択科目1	2~4	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を実践的な形で修得する。			◎	◎	
調査実習	自由選択科目1	3~4	社会調査に関する基礎を学習するとともに、実際に調査の企画から実施、集計と分析まで行うことで社会調査を体系的に学習する。				◎	
外書講読・独A	自由選択科目1	3~4	辞書を使いながら、経済関連書を読むことができる。	◎				
外書講読・独B	自由選択科目1	3~4	辞書を使いながら、経済関連書を読むことができる。	◎				
外書講読・仏A	自由選択科目1	3~4	辞書を使いながら、経済関連書を読むことができる。休講	◎				

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
外書講読・仏B	自由選択科目1	3~4	辞書を使いながら、経済関連書を読むことができる。休講	◎				
経済地理学1	自由選択科目1	2~4	経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	○	◎			
経済地理学2	自由選択科目1	2~4	経済的諸活動の空間構造とその動態を地理学的に理解し、説明することができる。	○	◎			
課題解決演習A	自由選択科目1	1~4	協力企業による講義やグループディスカッションを通じて、産業の多様性や関係性について学び、社会・経済の全体構造について理解を深めることができる。	○	◎	◎		◎
課題解決演習B	自由選択科目1	2~4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎
課題解決演習C	自由選択科目1	2~4	協力企業から提示される課題に取り組みながら、専門科目として学ぶ経済と実社会で起きている問題を結びつけて理解するとともに、職業理解を深めながら、社会人基礎力を高めることを目的とする。	○	◎	◎		◎
企画講座1	自由選択科目1	2~4	「将来親の会社を継ぐかもしれない」または「継ぐ予定はないが、経営に関心がある」学生が、会社経営や事業承継の意義・課題を理解し、活用することができる。	○	◎	◎		◎
企画講座2	自由選択科目1	2~4	国の財政監督機関である会計検査院が行っている会計検査の役割、その実施方法、報告書の内容などを理解し、国民が納めた税金が適正かつ効率的・効果的に使われているかをチェックすることの重要性について考えることができる。	○	◎	◎		◎
企画講座3	自由選択科目1	2~4	公共政策の財源を調達しつつ、所得・富の再分配を行い、経済の安定化等に資する租税制度及びその運営を支える税理士制度について学び、経済社会における租税の重要性を理解する。	○	◎	◎		◎
企画講座4	自由選択科目1	3~4	会計が、企業を取り巻く利害関係者との間で行われ、人と人との関係が背後に横たわっているという意味ですぐれた社会的な行為であることを理解する。			◎		◎
インターンシップ	自由選択科目1	2~4 (2,3年次推奨)	自分自身のキャリアデザインを考え、活用することができる。			◎		◎
職業指導概論	自由選択科目1	3~4	個人の職業行動への介入活動である職業指導の歴史的発展と今日のキャリア形成とキャリア発達の理論とその促進の技法を理解し、自分の意見を説明することができる。			◎		◎
憲法1	自由選択科目1	1~4	本講義では、近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを概観していくこととする。	○	○			

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
憲法2	自由選択科目1	1~4	本講義では、近代憲法の基本原理を検討するとともに、日本国憲法の「前文」から「第10章 最高法規」までを概観していくこととする。	○	○			
民法1	自由選択科目1	1~4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それを対処するための基本的な法的発想力を身につけ、説明することができる。	○	○			
民法2	自由選択科目1	1~4	実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それを対処するための基本的な法的発想力を身につけ、説明することができる。	○	○			
経済法1	自由選択科目1	3~4	経済法を中心とする独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制を理解し、説明することができる。	○	○			
経済法2	自由選択科目1	3~4	経済法を中心とする独占禁止法の基本原理、基本概念、私的独占と集中規制を理解し、説明することができる。	○	○			
行政学1	自由選択科目1	3~4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	○		
行政学2	自由選択科目1	3~4	主権者(制度論)・消費者(政策論)・納税者(管理論)という3つの視点から行政を理解し、改革の処方箋の当否について考える能力を身につける。		◎	○		
地方自治論	自由選択科目1	3~4	地方自治をを理解し、自分の意見を説明することができる。	○	○	◎		
労働法	自由選択科目1	3~4	労働法の基本的な枠組み(法制度・判例)を理解するとともに、それらの背後にある考え方・問題点を理解し、説明することができる。	○	○			
日本史	自由選択科目1	2~4	日本史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎		
世界史	自由選択科目1	2~4	世界史上の諸テーマについて、通史的に理解を深める。	○	◎	◎		
政治学	自由選択科目2	2~4	今日の日本政治の構造とダイナミズムを、理論的な枠組みにそって、また比較研究をつうじて理解し、説明することができる。	◎	◎			
地誌学1	自由選択科目2	1~4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようにする。	○	◎	◎		

経済学部会計ファイナンス学科のカリキュラム				経済学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)				
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	① 国際社会に通用する専門的知識と教養を身につけている。	② 経済現象を歴史的・理論的に考察することができる。	③ 現実の問題を発見し、分析し、解決に取り組むことができる。	④ 経済・経済政策・会計に関する情報処理を行うことができる。	⑤ 自らのキャリアを設計することができる。
地誌学2	自由選択科目2	1~4	具体的な事例に基づいて地域と生活の密接な関係を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地理学概説1	自由選択科目2	1~4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎		
地理学概説2	自由選択科目2	1~4	地理学の基礎を学び、人間の生活の多様性を理解できるようになる。	○	◎	◎		
心理学1	自由選択科目2	1~4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○		
心理学2	自由選択科目2	1~4	実証科学としての心理学の基本的枠組みのもと、「心」の様々な側面について理解することにより、自分や他者の「心」の働きを考える手がかりを得る。	○	○	○		
宗教思想1	自由選択科目2	1~4	現在のわれわれの知の枠組みを決定した近代の西欧思想に触れ、その中で宗教の問題がどのような位置にあるかを考えること。	○	○	○		
宗教思想2	自由選択科目2	1~4	受講者が現代の宗教思想に自分で触れ、考えるようになること。	○	○	○		
哲学概論1	自由選択科目2	1~4	西洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○		
哲学概論2	自由選択科目2	1~4	東洋哲学に即して哲学的思考について理解し説明することができる。	○	○	○		